



香川大学

インターナショナルオフィス年報

第8号(2016年度)

香川大学
インターナショナル
オフィス年報
第8号(2016年度)

巻頭言	1
【インターナショナルオフィス全体に関わる報告】	
香川大学国際化の基本方針と重点戦略課題	2
4 & 1 プラン（「留学生400人の受け入れ・日本人学生100人の留学派遣」に向けての取り組み）進捗状況	3
学術交流協定一覧	7
平成28年度香川大学グローバル人材育成特定基金 実施状況	9
平成28年度インターナショナルオフィス年間行事	10
平成28年度学長等表敬訪問	12
平成28年度香川大学インターナショナルウィークの報告	14
危機管理セミナー（FD・SD）に関する報告	15
平成28年度学長主催外国人留学生交歓会を開催	16
香川大学帰国留学生ネットワーク・タイ支部総会の開催	17
香川大学グローバル人材育成事業による英語ネイティブ教員の活躍	18
民間宿舎借り上げ事業	19
日本・インドネシアの農山漁村で展開する6大学協働サービスラーニング・プログラム（SUIJI）について	20
JICAとの連携	21
【国際研究支援センターに関わる報告】	
第6回香川大学・チェンマイ大学合同シンポジウムの開催	22
学術交流協定締結校との交流状況（教職員受け入れ）	24
学術交流協定締結校との交流状況（教職員派遣）	25
外国人研究者等の受け入れ状況	26
平成28年度国際学会・国際シンポジウム等開催状況	28
【留学生センターに関わる報告】	
日本語教育カリキュラム等の報告	30
相談（交流推進）事業の報告	35
全学共通科目「Study Abroad」授業の報告	38
全学共通科目「海外体験型異文化コミュニケーション」（タイにおける研修）の実施	39
「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」への取り組み	41
海外語学研修プログラム（韓国語）の報告	42
平成28年度留学生センター留学生の受け入れ	43
各部署主催の短期受け入れプログラムにおける日本語授業の報告	45
留学生対象各種進学説明会	47
課外教育行事	49
交流活動および地域住民との連携の報告	50
就職支援プログラム	52
【資料】	
香川大学インターナショナルオフィス規則	54
香川大学インターナショナルオフィス会議規程	57
香川大学国際研究支援センター規程	59
香川大学留学生センター規程	61
インターナショナルオフィス教職員一覧	63

香川大学インターナショナルオフィス年報

第8号(2016年度)

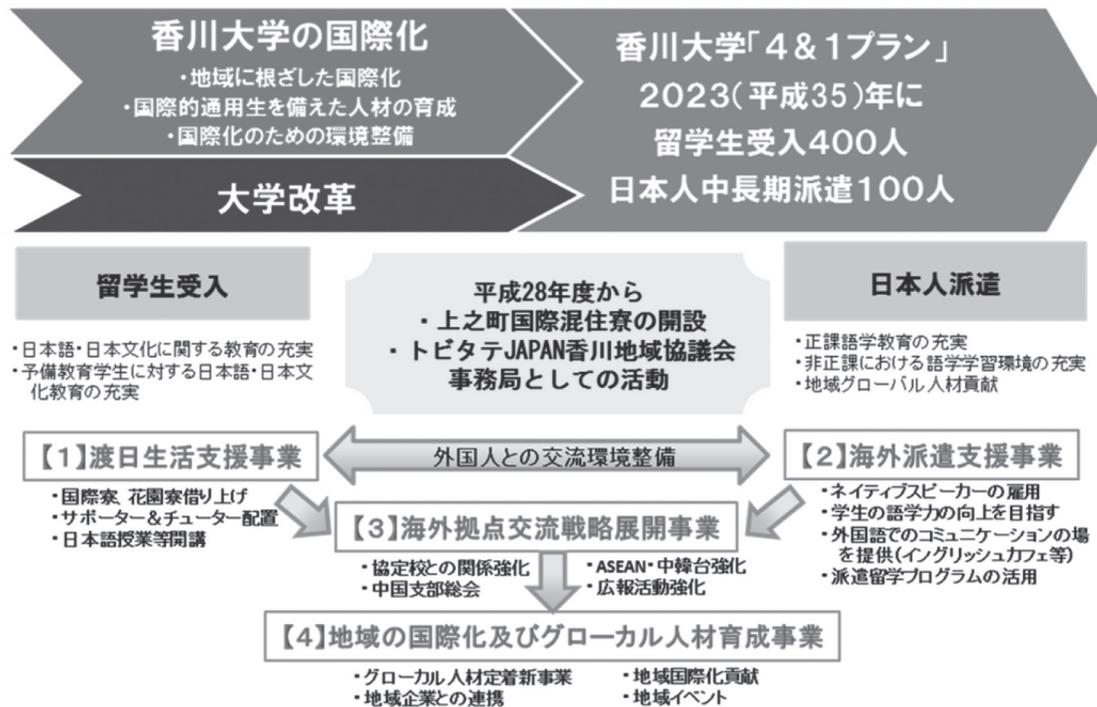
目次

巻頭言	1
【インターナショナルオフィス全体に関わる報告】	
香川大学国際化の基本方針と重点戦略課題	2
4 & 1 プラン（「留学生400人の受け入れ・日本人学生100人の留学派遣」に向けての取り組み）進捗状況	3
学術交流協定一覧	7
平成28年度香川大学グローバル人材育成特定基金 実施状況	9
平成28年度インターナショナルオフィス年間行事	10
平成28年度学長等表敬訪問	12
平成28年度香川大学インターナショナルウィークの報告	14
危機管理セミナー（FD・SD）に関する報告	15
平成28年度学長主催外国人留学生交歓会を開催	16
香川大学帰国留学生ネットワーク・タイ支部総会の開催	17
香川大学グローバル人材育成事業による英語ネイティブ教員の活躍	18
民間宿舍借り上げ事業	19
日本・インドネシアの農山漁村で展開する6大学協働サービスラーニング・プログラム（SUIJI）について	20
JICA との連携	21
【国際研究支援センターに関わる報告】	
第6回香川大学・チェンマイ大学合同シンポジウムの開催	22
学術交流協定締結校との交流状況（教職員受け入れ）	24
学術交流協定締結校との交流状況（教職員派遣）	25
外国人研究者等の受け入れ状況	26
平成28年度国際学会・国際シンポジウム等開催状況	28
【留学生センターに関わる報告】	
日本語教育カリキュラム等の報告	30
相談（交流推進）事業の報告	35
全学共通科目「Study Abroad」授業の報告	38
全学共通科目「海外体験型異文化コミュニケーション」（タイにおける研修）の実施	39
「トビタテ！ 留学 JAPAN 日本代表プログラム」への取り組み	41
海外語学研修プログラム（韓国語）の報告	42
平成28年度留学生センター留学生の受け入れ	43
各部局主催の短期受け入れプログラムにおける日本語授業の報告	45
留学生対象各種進学説明会	47
課外教育行事	49
交流活動および地域住民との連携の報告	50
就職支援プログラム	52
【資料】	
香川大学インターナショナルオフィス規則	54
香川大学インターナショナルオフィス会議規程	57
香川大学国際研究支援センター規程	59
香川大学留学生センター規程	61
インターナショナルオフィス教職員一覧	63

巻 頭 言

インターナショナルオフィス長 徳 田 雅 明

インターナショナルオフィスには、留学生センターと国際研究支援センターの2センターがあり、香川大学のグローバル化を教育・研究の両面から支援しています。下の図はその中で特に、「4&1プラン」と称する留学生受け入れと日本人学生派遣のプログラムの概要を示しています。今年度から始まった第3期中期目標・中期計画においても、大学の意欲ある取り組みとして取り上げられています。香川大学は、平成30年度から大学改革に踏み切りますが、その中でもグローバル化は共通の課題になっています。6学部8大学院のある4キャンパスにおいて留学生が生き生きと勉強し、日本人学生との交流の機会が増えるとともに異文化理解が進むように、教員一同努力して参ります。



今年度の特筆事項のひとつは、平成28年4月に、グローバル感覚の涵養に資する目的で、留学生と日本人学生が共同して居住（混住）できる香川大学上之町国際寮（24室、48人定員）を高松市上之町にオープンしたことです。グローバル人材育成のための巣となることを期待しています。

最後になりますが、大学のグローバル化は地域のグローバル化と足並みを揃えて進む必要があります。これまで同様、自治体、教育機関、国際団体、企業等のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

香川大学 国際化の基本方針と重点戦略課題

～地域との連携を基盤に、地域に根ざした国際化を推進～ 平成23年1月31日役員会審議承認

基本方針

○地域に根ざした国際化

- 社会・経済のグローバル化や地球規模の課題に対応し、アジア・太平洋諸国等をはじめ、広く国際社会に貢献できる分野を重点に、海外の大学・研究機関等との学術・研究交流を促進する。
- 大学の持つ国際化に関する知識・経験やネットワークを地域と共有し、地域の行政、企業、住民等の国際化へのニーズに応える。
- 人と人とのつながりを基本に、地域の様々な国際交流活動との連携を深め、地域の国際化に貢献する。

○国際的通用性を備えた人材の育成

- 世界で活躍できる国際性豊かなグローバル人材を育成するとともに、アジア・太平洋諸国等から優れた留学生・研究者を受け入れ、相互の人材育成・交流を促す、双方向のグローバル教育を実践する。
- 世界を舞台とする社会貢献やキャリアデザインにつながるグローバルな学生交流の機会を提供する「世界の若者に開かれた大学」を目指す。
- 海外留学や国際ボランティアなど、国際的な視野を拡げ、経験を豊かにする学生の活動を積極的に支援する。

○国際化のための環境整備

- 海外の大学等との学生・研究者の相互派遣の拡大に向け、海外交流拠点のネットワーク整備を進めるとともに、教職員や学生による国際的な研究・交流活動を積極的に支援する。
- 国際的な学術交流の促進に向け、研究環境のより一層の充実・強化を図るとともに、留学生の生活面を含めた教育環境の整備を地域の支援・協力を得ながら進める。
- 多様な言語やライフスタイルを持つ海外からの留学生・研究者と本学学生・教職員との自由闊達な交流を促す「キャンパスの国際化」を推進する。

重点戦略課題

- 海外の大学・研究機関等との間で重点化すべき学術・研究交流分野の抽出並びに情報発信
 - ・各学部における研究成果や研究テーマの整理・データベース化、国際的な学術交流ニーズ、国際社会への貢献可能性などを踏まえ、重点分野を抽出し、ターゲットとすべき大学・研究者等に向けて情報発信
- 地域を交えた国際交流活動などによる地域の国際化への貢献
 - ・地域の自治体や企業等の交流ニーズを踏まえ、協定大学をはじめ、相互交流を促進する相手国・大学等を重点化するとともに、地域を交えた国際交流活動などを通じ、地域の国際化に貢献
- グローバル人材の育成に向けたプログラム化
 - ①グローバル人材に求められる能力要素を踏まえて教育プログラムを見直し、各学部・大学院カリキュラムに反映
(例：英語による教養・専門科目、ディベートなどの必修化、各年次・卒業までに到達する語学力の目標水準を能力に応じて設定し、着実に達成)
 - ②協定大学とのネットワークを活かした多言語プログラムや多様な留学コースを設置し、単位化するなどにより、学生の国際的視野を早期に拡大
 - ③アジア・太平洋諸国等から優秀な留学生や研究者を受け入れ、本学の学生との一体的な教育や、研究者間相互の学術交流を促す特色あるコースを設置し、大学のブランド化を促進
- 海外交流拠点のネットワークを効果的に整備するため、協定大学を重点対象として、交流内容や諸条件を打診・調整
- 留学生・外国人研究者のニーズや視点に立った支援の仕組みを整備するとともに、「キャンパスの国際化」を実現
 - ①留学生・外国人研究者のキャリア形成と地域社会の国際化ニーズをマッチングする仕組みを、地域の行政や企業等の支援・協力を得ながら構築
 - ②多言語による情報提供のシステム化や、美しく安全で快適なキャンパスを目指した点検・整備

4 & 1 プラン（「留学生400人の受け入れ・日本人学生100人の留学派遣」に向けての取り組み）進捗状況

インターナショナルオフィス ロン リム

平成25年に、「4 & 1 プラン」という大学の戦略が示された。このプランの趣旨は、10年間にわたり、留学生400人を受け入れ、日本人学生100人を海外に派遣するという計画である。それぞれの目標を達成するために、インターナショナルオフィスは全学部と連携して、方策を検討している。発足して以来、毎年会議を開催している。平成28年度には、4 & 1 プランの会議を4回開催した。各部局の現状の整理の上、お互いに調整をしながら大学全体の国際戦略づくりをし、今後どのように体系的に国際化をすすめていくのか議論した。なお、日程および主要検討事項については、下記のとおり報告する。

○第15回 4 & 1 プロジェクトチーム会議

日時：平成28年8月1日(月)

議事：各部局の現状について

○第16回 4 & 1 プロジェクトチーム会議

日時：平成28年9月6日(火)

議事：学生の受け入れ及び派遣拡大にかかる具体的な方策について

○第17回 4 & 1 プロジェクトチーム会議

日時：平成28年10月13日(木)

議事：学生の受け入れ及び派遣拡大にかかる具体的な方策について（継続：受け入れ中心）

○第18回 4 & 1 プロジェクトチーム会議

日時：平成28年11月22日(火)

議事：学生の受け入れ及び派遣拡大にかかる具体的な方策について（継続：派遣中心）

各部局の状況報告は下記のようなものである。

大学教育基盤センター（外国語教育部）

- ・これまで共通教育の外国語教育を担当していたが、グローバル教育を視野に入れ、運用を広げるために国際教育部に変更し、全学共通の大学教育基盤センターで検討していくことになった。

教育学部

- ・人間発達環境課程の平成30年以降募集停止が決定し、国際理解コースが担っていた重要な内容を教員養成課程でいかに引き継ぐかが課題となる。

法学部

- ・法学部では学問の特性上、国際交流による教育的効果が見えにくいため、留学生にとっては魅力が少ない。また日本人学生にとってもモチベーションが動きにくく、双方向の交流のメリットが双方ともに少ない。

経済学部

- ・短期派遣は海外研修という授業が定着しており、年間30～40名が、1～2週間程度留学している。
- ・長期間、例えば半年以上も、ネクストプログラム等で安定的に派遣しており、ネクストは法学部とも連携して、新たに法学部主管校にネクスト学生を派遣する。また、法学部学生の派遣を経済学部でフォローしている。

医学部医学科

- ・大学の特徴を出すために国際交流には力を入れており、ブルネイ、チェンマイ、英国、中国の各大学と集中的に深い交流を双方向で行っている。
- ・1年次1週間、2・3年次5週間、5年次4～6週間の留学プログラムを実施している。
- ・医学部ではブルネイとの交流が盛んだが、ブルネイ側から3年次に全学生を国外に研究留学に出すディスカバリーイヤーでの双方向の交流を望んでおり、文系学生も含め、広く交流したい。

医学部看護学科

- ・医学科と同じく、免許取得のため、まとまった留学期間を確保するのが難しく、10日前後の短期留学にとどまっている。
- ・国際交流は医学科と連携して行っており、学生、教員ともに英語力に課題がある。学問上国際教育になじまない側面はあるが、英語力を身に付けた教員の養成のためにも、修学の機会を設けることは必要である。

工学部

- ・まず入門編として1週間程度の協定校訪問で海外を経験させ、3年次以降にインターンシップを実施しており、プログラムとして定着している。
- ・留学生はフランス、スウェーデン、ドイツ、米国から交換留学で受け入れているほか、マレーシアからの編入も今年度から2名受け入れている。
- ・派遣は海外情勢にも影響されることがある。フランスで発生したテロの影響で、留学を取りやめたケースもある。また、中期目標の「3カ月以上の留学」は実情にあっていない。クォーター制を導入しても、1クォーターが2カ月程度のため、クォーター単位のインターンシップでは達成が難しい。
- ・ダブルディグリーはチェンマイ大学と締結したが、参加した学生はまだいない。特に日本人学生にとってのメリットが何なのか、今のところよく見えない。サボア・モンブラン大学とは制度が合わず実現は難しい。

農学部

- ・SUIJI では毎年学部生を20名弱の派遣、大学院ではジョイントプログラムで留学する学生が毎年1～3名おり定着しているが、世界展開力が最終年度となるため、今後の展開が不明である。
- ・日本の食の安全特別コースでは、カセサート大学、チュラロンコン大学などと協力してプログラムを実施している。チェンマイ大学も国際交流と位置づけ、チェンマイ側の負担で双方から10名程度の学生と一緒に受講している。
- ・ABE イニシアチブでは3名程度受け入れており、第3バッチであと2回実施予定。
- ・長期留学は、1～3年生で一度海外にいった学生がいく傾向にある。短期プログラムで得た刺激が長期留学の志願につながっているのではないかと思われる。
- ・中国のフェアに参加したとき、日本留学試験がネックになっていると分かった。これから学生数が減少すると、学部学生（正規生）を増やす必要があるのではないか。中国には優秀な学生がたくさんおり、台湾、韓国等からの学部生受け入れも考えられる。

地域マネジメント研究科

- ・留学生の受け入れ数は定員30名のうち1割で3名程度であるが、受験に留学生枠を設けるのは特性上しがたいため、大きな増員は見込めない。
- ・派遣も学外活動に関する管理責任は大学がなく、研究科としてコントロールすることは困難であるが、修士論文にあたるプロジェクト研究へ私費で調査に行くケースはある。

インターナショナルオフィス（以下「IO」）

- ・従来の骨組みのまま派遣も受け入れも達成しようとしていることが問題。骨組みを解体して組み立てなおす必要があるのではないか。
- ・受け入れのためにプログラムを整理して提示するしかない。まずは実績のある大学院生からターゲットするのが望ましい。英語での授業開設にはしほりがあるが、さぬきプログラムや学部横断でできるプログラムを新設してはどうか。
- ・派遣は最低1学期の留学が必要だと考える。クォーター制が導入され、機能するかは未知数。派遣にも様々なタイプがあるので、タイプ毎に分けて議論する必要がある。
- ・従来は国費、交換留学とターゲットを限定していたが、今後は科目等履修生も含めて広く受け入れたい。
- ・語学レベルも、ニーズがある中級にも拡大したい。ただし、スタッフが不足している。
- ・各部局から授業を提供してもらい、部局の専門や共通科目も受講させる。初中級は英語での授業提供が必要。
- ・プロジェクトさぬきなどの留学生向けに提供していた英語での授業は、日本人学生もとれるようにしていく。

全体的に、受け入れプログラムについて以下の意見があった。

- ・さぬきプログラムの発展的見直しを例とした応用事例の提示であるが、実施には各部局との連携が不可欠である。
- ・各部局、IO 双方にとって負担感が少なく、メリットとなるような大学全体のプログラムの実施

を検討する必要がある。

- ・従来の日本語、日本文化を一般的に学ぶプログラムから地域について学ぶプログラムに変更した場合、学生のニーズとマッチングしない可能性がある。ミスマッチを防ぐための多様なプログラム提供と情報提供が必要である。
- ・日本人学生も参加させる必要がある。意識の高い日本人学生と留学生を同じ教室で教育することにより、双方がメリットを享受できる。

次に派遣プログラムについて、以下の意見があった。

- ・ネクストプログラムについては、長期にわたり海外留学をする学生が非常に少なく、その状況を改善するために創設されたという背景がある。長期留学を阻害する要因の一つである費用面を解消するために奨学金制度を導入したほか、語学だけにとどまらない様々な学習を可能とするプログラムとして設計されている。
- ・EXPLORE は協定校への交換留学を IO が各部局と連携して調整したプログラム。ネクストと比較して維持コストが低く、拡大するポテンシャルが高いため、CMU、UBD 以外の協定校にも対象校を拡大したい。
- ・工学部インターンシップについてドイツ、フランス、スウェーデン、米国など様々なところへ学生を派遣している。昨年度は派遣学生数が二桁となった。課題としては、派遣先のマッチング、就職活動における出遅れといったことが挙げられる。

学術交流協定一覧

(2017年3月31日現在)

●大学間協定〔18カ国・地域、55機関〕

機関名	国・地域名	大学間協定締結年月日	実施細則等締結部局
カセサート大学	タイ王国	1988年8月25日 再締結(99年1月20日)	農学部、大学院農学研究科
チェンマイ大学	タイ王国	1990年4月24日	農学部、大学院農学研究科
			工学部、大学院工学研究科
			教育学部
			医学部、大学院医学系研究科 医学部看護学科、大学院医学系研究科看護学専攻
ルイビル大学	アメリカ合衆国	1997年9月2日	法学部、大学院法学研究科
サボア・モンブラン大学	フランス共和国	2000年3月24日	工学部、大学院工学研究科
南京農業大学	中華人民共和国	2001年7月4日	農学部、大学院農学研究科
ミュンヘン工科大学	ドイツ連邦共和国	2002年2月13日	工学部、大学院工学研究科
メチヨー大学	タイ王国	2002年3月7日 再締結(11年11月22日)	農学部、大学院農学研究科
国立政治大学	台湾	2002年3月19日	法学部、大学院法学研究科
ラインマイン大学	ドイツ連邦共和国	2002年9月23日	経済学部、大学院経済学研究科
コロラド州立大学	アメリカ合衆国	2002年10月8日 再締結(12年10月1日)	教育学部
韓国海洋大学	大韓民国	2002年12月18日	工学部、大学院工学研究科
上海大学	中華人民共和国	2003年9月1日 再締結(14年1月3日)	経済学部、大学院経済学研究科
ハルビン工程大学	中華人民共和国	2005年2月23日	工学部、大学院工学研究科
			大学院地域マネジメント研究科
大邱大学	大韓民国	2005年5月17日	経済学部
カデイス大学	スベイン	2006年1月31日	農学部、大学院農学研究科
中国海洋大学	中華人民共和国	2006年12月19日	法学部、大学院法学研究科
真理大学	台湾	2007年6月11日	経済学部
西北大学	中華人民共和国	2007年10月17日	経済学部
南ボヘミア大学	チェコ共和国	2008年11月12日 再締結(13年11月15日)	教育学部
ハンバット大学	大韓民国	2008年11月14日	工学部、大学院工学研究科
電子科技大学	中華人民共和国	2009年6月1日	工学部、大学院工学研究科
天津農学院	中華人民共和国	2009年6月4日	農学部、大学院農学研究科
フランシュ・コンテ大学	フランス共和国	2009年7月24日	工学部、大学院工学研究科
ブルネイ・ダルサラーム大学	ブルネイ・ダルサラーム国	2009年11月8日	医学部
チュラロンコン大学	タイ王国	2010年2月1日	農学部
シレバングラ農科大学	バンラデシュ人民共和国	2010年5月10日	農学部、大学院農学研究科
コンピエーネ技術大学	フランス共和国	2010年7月8日	工学部、大学院工学研究科
トリバン大学	ネパール連邦民主共和国	2010年11月2日	工学部
ムルシア大学	スベイン	2010年12月9日	教育学部
バッタンバン大学	カンボジア王国	2010年12月9日	農学部、大学院農学研究科
王立農業大学	カンボジア王国	2010年12月13日 再締結(15年11月19日)	農学部、大学院農学研究科
誠信女子大学	大韓民国	2011年2月21日	教育学部
セントピーターズバーグ大学	アメリカ合衆国	2011年2月28日	教育学部
リモージュ大学	フランス共和国	2011年3月14日	工学部、大学院工学研究科
北京外国語大学	中華人民共和国	2011年3月29日	教育学部
長春理工大学	中華人民共和国	2012年1月16日	工学部、大学院工学研究科
浙江工商大学	中華人民共和国	2012年5月7日	農学部、大学院農学研究科
天津理工大学	中華人民共和国	2012年10月25日	工学部、大学院工学研究科
カリフォルニア州立大学フラトン校	アメリカ合衆国	2012年11月9日	経済学部
パリ電子電気工学技術高等学院	フランス共和国	2012年11月19日	工学部、大学院工学研究科
ガジヤマダ大学	インドネシア共和国	2013年1月31日	農学部
ディボネゴロ大学	インドネシア共和国	2013年2月4日	農学部、大学院農学研究科
州立ロンドリーナ大学	ブラジル連邦共和国	2013年3月11日	農学部、大学院農学研究科
国立嘉義大学	台湾	2013年4月25日	工学部
高等機械大学院大学	フランス共和国	2013年5月24日	工学部、大学院工学研究科
ガイゼンハイム大学	ドイツ連邦共和国	2013年7月15日	農学部、大学院農学研究科
第四軍医大学	中華人民共和国	2014年5月27日	医学部
ハノイ工科医学	ベトナム社会主義共和国	2015年9月24日	農学部
アサンブション大学	タイ王国	2015年11月19日	農学部
ハルムスタッド大学	スウェーデン王国	2015年12月15日	工学部
聖公会大学校	大韓民国	2016年5月25日	経済学部
東西大学校	大韓民国	2016年5月26日	経済学部
シラパコーン大学	タイ王国	2016年6月15日	農学部

●部局間協定〔14カ国・地域、26機関〕

部局名	機関名	国・地域名	締結年月日
教育学部	清州大学人文学部	大韓民国	2001年7月9日
教育学部	クライストチャーチ・ポリテクニク工科大学	ニュージーランド	2002年1月23日 再締結（11年12月1日）
教育学部、大学院教育学研究科	江西師範大学国際教育学院	中華人民共和国	2005年2月25日 再締結（14年9月2日）
教育学部	ガウハチ大学地理学科	インド	2015年8月3日
教育学部	インド工科大学グワハチ校	インド	2015年8月5日
教育学部	ノースイースタンヒル大学地理学科	インド	2015年10月23日
法学部、大学院法学研究科	上海社会科学院法学研究所	中華人民共和国	1996年9月2日
法学部、大学院法学研究科	華東政治法律大学	中華人民共和国	1996年9月5日
医学部	カルガリー大学医学部	カナダ	1989年7月31日
医学部	中国医科大学	中華人民共和国	1997年8月28日
医学部	河北医科大学	中華人民共和国	2001年11月27日
医学部	ブルネイ・ダルサラーム国保健省	ブルネイ・ダルサラーム国	2009年12月5日
工学部、大学院工学研究科	ボン＝ライン＝ズィーク大学	ドイツ連邦共和国	2002年2月12日 再締結（13年5月19日）
工学部、大学院工学研究科	国立高等精密機械大学院大学	フランス共和国	2009年1月28日
工学部、大学院工学研究科	トレド大学	アメリカ合衆国	2009年3月30日 再締結（12年11月8日）
工学部、大学院工学研究科	ラップランド応用科学大学	フィンランド共和国	2009年6月1日 再締結（14年7月28日）
工学部、大学院工学研究科	漢陽大学工学部及びブレイン・コア21機械工学科	大韓民国	2010年4月14日 再締結（16年3月17日）
工学部、大学院工学研究科	北京師範大学化学学院	中華人民共和国	2012年3月31日
工学部、大学院工学研究科	北京理工大学生命学院	中華人民共和国	2012年10月24日
工学部、大学院工学研究科	アルピニ山大学	フランス共和国	2016年4月1日
工学部、大学院工学研究科	宝鶏文理学院化学化工学院	中華人民共和国	2016年12月19日
農学部、大学院農学研究科	ダッカ大学生物科学部	バングラデシュ人民共和国	1998年12月15日
農学部、大学院農学研究科	ミシガン州立大学農学・自然資源学部	アメリカ合衆国	1999年3月22日
農学部、大学院農学研究科	ボゴール農業大学農学部、大学院研究科	インドネシア共和国	2000年6月13日
農学部、大学院農学研究科	西オーストラリア大学自然科学・農学部	オーストラリア連邦	2002年3月28日
農学部、大学院農学研究科	ブルゴーニュ大学アグロスツップ校	フランス共和国	2010年6月1日
大学院地域マネジメント研究科	ナポリフェデリコ2世大学・農学部	イタリア共和国	2015年3月13日

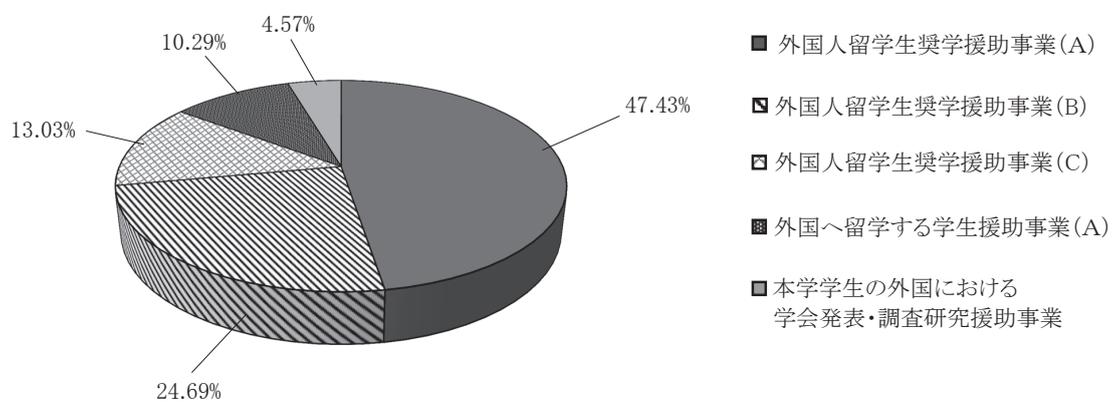
●連携協力協定〔5件〕

協定	連携協力機関	締結年月日
国際メカトロニクス研究教育機構に関する一般協定	サボア大学、国立高等精密機械大学院大学、フランシュ・コンテ大学、電気通信大学、東京電機大学、首都大学東京、産業技術大学院大学、高等機械大学院大学、リモージュ大学、コンピエーネ技術大学、三重大学	2009年1月30日
地球ディベロプメントサイエンス国際コンソーシアムの設立に関する一般協定	GRAM・バングラ	2010年2月16日
熱帯農業に関するSUIJI (Six University Initiative Japan Indonesia) コンソーシアム協定	ガジャマダ大学、ボゴール農業大学、ハサヌディン大学、愛媛大学、高知大学	2011年3月16日
国際交流訪問者プログラムに関する覚書	フロリダ・バレンシア大学地区理事会及び大学生協中国四国事業連合	2015年4月24日
JICA 四国と国立大学法人香川大学との連携協力の推進に関する覚書	JICA 四国	2016年3月16日

平成 28 年度香川大学グローバル人材育成特定基金 実施状況

各事業実施割合

事業名	実施額（千円）	事業全体に占める割合
外国人留学生奨学援助事業(A)	2,075	47.43%
外国人留学生奨学援助事業(B)	1,080	24.69%
外国人留学生奨学援助事業(C)	570	13.03%
外国へ留学する学生援助事業(A)	450	10.29%
本学学生の外国における学会発表・調査研究援助事業	200	4.57%
計	4,375	100.00%



平成 28 年度インターナショナルオフィス年間行事

月 日	行 事
4月1日(金)	香川大学工学部及び大学院工学研究科とアルビ鉱山大学との覚書、香川大学工学部及び大学院工学研究科とアルビ鉱山大学との学生交流プログラムに関する実施細則、及び香川大学工学部及び大学院工学研究科とアルビ鉱山大学とのインターンシッププログラム協定の締結
4月7日(木)	春期さぬきプログラム及び国費留学生開講式
4月9日(土)	新入生ガイダンス（寮ガイダンス含む）・歓迎会（情報交換会）
4月13日(水)	香川大学農学部及び大学院農学研究科と嘉義大学農学院との学術交流協定に関する実施細則締結
4月25日(月)	香川大学大学院工学研究科とチェンマイ大学工学部及び大学院研究科のダブルディグリープログラムに関する了解事項覚書き締結
4月27日(水)	百十四銀行就職セミナー
5月19日(木)	香川県留学生等国際王流連絡協議会運営委員会
5月25日(水)	香川大学と聖公会大学校との学術交流協定書、香川大学と聖公会大学校との学術交流協定書に基づく学生の交流に関する実施細則の締結
5月26日(木)	香川大学と東西大学校との学術交流協定書、香川大学と東西大学校との学術交流協定書に基づく学生の交流に関する実施細則の締結
6月15日(水)	香川大学とシラパコーン大学との間の学術交流協定書、香川大学とシラパコーン大学との学術交流協定書に基づく学生の交流に関する実施細則、及び香川大学農学部及び大学院農学研究科とシラパコーン大学工学・産業技術学部との学術交流協定に関する実施細則締結
7月1日(金)	香川地域活性化グローバル人材育成プログラム第5期生対象事前オリエンテーション（香川地域人材育成コース協議会主催）
7月2日(土)	ホームビジット第1期1日目
7月2日(土)	上之町国際寮交流会
7月9日(土)	ホームビジット第1期2日目
7月16日(土)	留学生会館交流会
7月27日(水)	春期さぬきプログラム及び国費留学生修了式/外国人留学生及びチューター等意見交換・反省会
8月4日(木)	夏季 海外渡航者向け 危機管理セミナー
8月5日(金)	外国人留学生等の入国・在留に関する実務懇談会&交流会
8月5日(金)	香川地域活性化グローバル人材育成プログラム 第5期派遣留学生壮行会（香川地域人材育成コース協議会主催）
8月27日(土)～30日(火)	第6回香川大学・チェンマイ大学合同シンポジウム
9月6日(火)	香川大学とチェンマイ大学との学術交流に関する一般的覚書の再締結
9月27日(火)	留学生サポーター・チューターガイダンス
10月5日(水)	秋期さぬきプログラム開講式
10月8日(土)	新入生ガイダンス（寮ガイダンス含む）・歓迎会（情報交換会）
10月28日(金)	留学生就職活動準備セミナー
11月5日(土)	第1回留学生課外教育行事
11月14日(月)	留学生採用支援セミナー&交流会
12月3日(土)～10日(土)	インターナショナルウィーク
12月3日(土)	ホームビジット第2期1日目
12月6日(火)	学長主催外国人留学生交歓会
12月7日(水)	留学 Round Table
12月10日(土)	ホームビジット第2期2日目
12月19日(月)	香川大学経済学部及び大学院経済学研究科と国立政治大学社会科学学院との研究教育交流に関する実施細則の締結
12月19日(月)	香川大学工学部及び大学院工学研究科と宝鷄文理学院化学化工学院との学術交流協定等の締結

月 日	行 事
1月13日(金)	企業見学会
1月17日(火)	第5回国立嘉義大学・香川大学合同ワークショップ成果報告会
1月25日(水)	第13回外国人留学生作文コンテスト表彰式、ホームビジット報告会および交流会
2月1日(水)	秋期さぬきプログラム修了式/外国人留学生及びチューター等意見交換・反省会
2月11日(土)・12日(日)	Higher Education Expo (ブルネイ・ダルサラーム国)
2月16日(木)	冬季 海外渡航者向け 危機管理セミナー
2月17日(金)	ビジネスマナー講座
3月14日(火)	帰国留学生ネットワーク タイ支部第3回総会
3月30日(木)	留学生サポーター・チューターガイダンス

平成 28 年度学長等表敬訪問

- 5月19日 コロラド州立大学（アメリカ）
日本語を学習している学生7名及び教員1名が、徳田インターナショナルオフィス長を表敬訪問。
約6週間、教育学部の実施する「アジア・アメリカ異文化交流短期受け入れプログラム2016」に参加。
- 5月31日 エッカード大学（アメリカ）
学生5名、教員2名が、徳田インターナショナルオフィス長を表敬訪問。
瀬戸内海に面する姉妹都市高松市及びその周辺エリアにおける環境を学ぶ、第2回「さぬきエコプログラム」に参加。
- 6月9日 サボア・モンブラン大学（フランス）
Thierry Villemin 副学長、Isabelle Villemin 副学長夫人、Philippe Bolon ポリテク・ヌアシーシャンベリー校副学部長（国際交流担当）、Emilie Viret-Thasiniphone 国際交流室職員が、徳田インターナショナルオフィス長を表敬訪問。
- 7月4日 チェンマイ大学（タイ）
学生8名が、徳田インターナショナルオフィス長を表敬訪問。
教育学部が実施する「アジア・アメリカ異文化交流プログラム」に参加。
- 7月11日 独立行政法人科学技術振興機構の「日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）」により招へいされた参加者8名が、徳田インターナショナルオフィス長を表敬訪問。
7月10日から20日までの約10日間、カセサート大学、シラパコーン大学（タイ）、ハノイ工科大学、ホーチミン市工科大学（ベトナム）、ガジャマダ大学（インドネシア）、国立嘉義大学（台湾）、南京農業大学、浙江工商大学（中国）で、主に食品科学を専攻している日本を初めて訪れる教員、学生等8名が、研究を行いつつ、日本の食品科学技術について学ぶ、農学部のプログラムに参加。
- 8月22日 農学部による「食品の安全・機能解析教育に関する東南アジア等の大学間体験学習型プログラム」短期受け入れ学生が、徳田インターナショナルオフィス長を表敬訪問。
- 10月3日 プトラ大学（マレーシア）
Soh Kim Lam 看護部門長、Salimah Japar 講師が、徳田インターナショナルオフィス長を表敬訪問。

1月23日 コロラド州立大学（アメリカ）

James A. Cooney 副学長（国際交流担当）が来学し、徳田インターナショナルオフィス長を表敬訪問。

3月21日 南洋理工学院（シンガポール）

教員2名、学生16名が、徳田インターナショナルオフィス長を表敬訪問。

平成 28 年度香川大学インターナショナルウィークの報告

インターナショナルオフィス ロン リム

昨年度につづき、今年は2回目として実施した。目的は、本学における国際交流活動の取り組みを広く学生へ周知すると共に、また、海外留学に関する講演会や学生主体のイベント、パネル展示などを実施し、学生の留学への参加を促進することにある。開催期間は、12月3日(土)～12月10日(土)。各取り組みは、以下のとおりとなった。

- 1) 「2016年 外国人学生かがわホームビジット」(香川県留学生等国際交流連絡協議会主催)
内容：県内、複数の教育機関で在学中の留学生は日本人の家庭へ訪問して、交流する。
- 2) パネル展示
内容：学内複数の会場で、学術交流協定校、海外研修プログラム、インターナショナルオフィス及び各部局の取り組み等をパネルなどで紹介する。
- 3) 学長主催外国人留学生交歓会
内容：年内、もっとも規模の大きな交流会であり、全学の留学生及び家族をはじめ、大学の関係者や国際交流と関連ある地域団体や住民との交流イベントである。
- 4) 留学ラウンドテーブル
内容：昨年に続き、今年は2回目の実施。二部体制で実施した。第1部は、留学・研修先(協定校)の紹介(トビタテ含む)、第2部は交流会である。
- 5) 「アフリカ地域村落飲料水管理(B)英語」コース第3弾 アクションプラン発表会(JICA主催)
内容：アフリカ12か国の行政官が研修成果を踏まえ、帰国後の活動計画について発表する。
講師：ウガンダ、エチオピア、ガンビア、ケニア、ザンビア、ジンバブエ、スーダン、ソマリア、タンザニア、ナイジェリア、マラウイ、ルワンダからの JICA 研修員(地方/村落給水を担当する行政官)
- 6) 各部局による海外留学ガイダンス等
場所：工学部、農学部キャンパス
- 7) その他関連行事
JICA 主催「アフリカ地域村落飲料水管理(B)英語」コース
第1弾 カントリーレポート発表会
第2弾 講義「水系感染症総論」、「アフリカ部落給水の衛生・水質管理と健康」
会 場：オーリーブスクエア2階 教職員ラウンジ

危機管理セミナー（FD・SD）に関する報告

インターナショナルオフィス ロン リム

平成25年度に開始された「4 & 1 プラン」に伴って、海外への日本人学生の派遣人数も増えている。平成28年度には、派遣人数は281名だった。大部分の学生は3ヵ月未満の海外研修や留学へ行く。3ヵ月以上の海外滞在する学生数は47名だった。本学は学生を海外へ派遣する際、プログラムの内容などはもちろん重要だが、一番大事な側面は「安全性」であると考えている。そこで、インターナショナルオフィスは、年に2回、セミナーを実施している。このセミナーは、学生の他、海外渡航する予定のある教職員も対象とする。

第1回は、平成28年8月4日に開催された。参加者は約60名だった。第2回は、平成29年2月16日に開催され、およそ100名が参加した。

海外滞在中、さまざまな自然災害をはじめ、事件や事故に遭遇する可能性はある。万が一複数の方々が巻き込まれる場合、特に自然災害の場合はこのようなケースが出てくる可能性が高い。渡航者が異なる保険会社に加入すると、有事後の対応は複雑になることが予想される。少しでもこの状態を防ぐために、インターナショナルオフィスは特定の保険会社と一括契約をしている。

その関連で、本セミナーには、その特定の保険会社に所属している専門家をお呼びして、講演をしてもらう。内容は出国前の準備の他、渡航中の行き、研修・留学先での日常の身の上の安全の防衛策、自然災害時の行動、テロ事件に遭ったら、などである。

インターナショナルオフィスは常に各部局と連携をして、有事の際、いつでも、現地へ行けるような体制をとっている。むろん、本学の渡航者全員には研修や留学を実施して、無事に帰ってくることを切に願っている。

平成 28 年度学長主催外国人留学生交歓会を開催

平成28年12月6日(火)、外国人留学生、教職員及びチューター等日本人学生と地域や国際交流団体の方々との親睦を深めるため、学長主催による外国人留学生交歓会をホテルパールガーデンにおいて開催し、275名が参加した。

交歓会は、工学部4年の Muhammad Zafri Bin Zamzuri (ザフリ)さん、経済学部4年 Nguyen Thi Ha Phuong (ハー)さんの司会進行のもと、長尾学長の挨拶に続き、留学生代表の経済学部3年叢賽(ソウサイ)さんの挨拶、徳田副学長(国際戦略・特命担当)による乾杯の音頭で開始された。また、中国、ベトナム、タイからの留学生によるダンスが披露され、大いに盛り上がった。

最後にロン留学生センター長による挨拶で交歓会を締めくくった。これを機に本学の留学生達が、さらなる交流の輪を広げ、日本での留学生生活を充実したものにしてくれることを願う。

香川大学帰国留学生ネットワーク・タイ支部総会の開催

平成29年3月14日、チェンマイにて帰国留学生ネットワーク・タイ支部の第3回総会を開催した。同支部は平成24年に設立、第1回総会が開催された。その後は2年に1回の割合で総会を開催している。過去2回はバンコクで開催していたが、今回は場所をチェンマイに移して開催された。

本学からは片岡農学部長やロン留学生センター長をはじめとする農学部及びインターナショナルオフィスの教職員が参加。タイ在住の本学帰国留学生のほか、今回は本学からタイへ留学中の学生も参加。計25名程度が集まった。

片岡農学部長及び帰国留学生代表からの挨拶の後、参加者による最近の研究成果の発表を含めた近況報告があった。その後は自由に歓談がなされたが、帰国留学生が相互に親睦を深め合っていたほか、タイ留学中の本学学生が留学生OB・OGにいろいろな質問等をしている場面も見られた。

約2時間の交流は、終始なごやかな雰囲気の下に行われた。

なお、今回のチェンマイ訪問に当たり、上記総会開催のほか、本学教職員による交流協定校その他への訪問も行われた。メチョー大学では副学長（代理）と懇談したほか、同大学が有する農学系施設を見学した。チェンマイ大学では本学への留学を希望している学生に対して面接を行った。また本学の帰国留学生が勤務する現場として、種苗関係の研究を行う Hortigenetics Research 社を訪問、研究施設を見学した。さらにバンコクでJSPS、JICA、JASSOの事務所を訪問。今後の学生交流や研究交流のための戦略立案における参考とするため情報収集を行った。

香川大学グローバル人材育成事業による英語ネイティブ教員の活躍

インターナショナルオフィス長 徳田 雅 明

平成27年度に香川大学グローバル人材育成事業として採用した6名の非常勤教員（通称：英語ネイティブ教員）は、平成28年度には4名となったものの、教育学部（Mr. Davis Erik James）、医学部（Dr. Mostofa Ruby）、工学部（Mr. Murrin Jason）およびインターナショナルオフィス（Mr. Sam Jaeger）に配置され、活躍した。4名は、それぞれの学部やイングリッシュカフェにおいて、主に日本人学生の英語によるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高め、留学を目指す学生を増やすための活動を行った。イングリッシュカフェでは、English Round Table（毎週火）やTOEICやIELTS受験のための特訓、異文化コミュニケーション指導、English Presentation Contestなどを実施した。また教職員向けのStaff Englishも開講した。

ネイティブ教員と話すことにより、英語の垣根が次第に低くなるとともに、海外への興味は強くなり、学部の留学プログラムやインターナショナルオフィスのExploreプログラムに参加したり、トビタテ留学JAPANやネクストプログラムなどに応募する学生も出てきている。また、高大連携の場として近隣の高校からの見学も多く受け入れている。香川大学のグローバル化の推進に大きな役割を担っている。



民間宿舎借り上げ事業

慢性的な留学生宿舎の不足を解消するため、平成25年度より民間宿舎の借り上げを開始している。香川大学花園寮を借り上げて4年目の運営となるが、平成28年度より、新たに香川大学上之町国際寮の運営を開始した。

香川大学上之町国際寮は、民間企業が世帯用宿舎として利用していた物件を借り上げたもので、幸町キャンパスから3.7kmに位置している。留学生の生活をサポートすること、留学生とともに生活することで日本人学生の国際性を育てることを目的に、2人で1戸をシェアする「混住寮」とし、23戸46名分の居室と、共有スペースを設けた。各戸には、2人が共有で使用するダイニング、キッチン、シャワールーム等があり、個室も備えている。

平成28年7月2日(土)には、学生と寮近隣の地域の方々との交流を図るため、また日本文化を体験することを目標として、「上之町国際寮交流会」(そうめん流し)を開催した。学生らは、そうめん流しの竹を設置したり、稲荷ずしを作ったりして、地域の方々をお迎えする準備に励んだ。上之町自治会長様を始めとする地域の方々にご参加いただいた。始終和やかな雰囲気でも地域の方々や学生同士の交流が深まった。

日本・インドネシアの農山漁村で展開する6大学協働 サービスラーニング・プログラム（SUIJI）について

四国3大学（愛媛大学、高知大学、香川大学）とインドネシア3大学（ガジャマダ大学、ボゴール農業大学、ハサヌディン大学）の計6大学がコンソーシアムを形成し、平成23年から展開してきた上記プログラムについて、平成28年度も引き続き事業を展開した。

香川大学に関係の深い部分としては、以下の事業を実施した。

(1) 小豆島におけるサービスラーニング

8月20日から9月6日にかけて実施され、インドネシアからの学生5名を含む15名が参加した。期間中は、本学教員や自治体関係者による講義のほか、地域の方々の話を聞いたり、地元の伝統芸能（農村歌舞伎）体験、稲刈り体験などを行ったりした。また小豆島の名産品である醤油、そうめん、オリーブに関連のある場所を見学したり、地域の方々との交流の一環としてインドネシア料理を振舞ったりもした。

(2) インドネシアにおけるサービスラーニング

インドネシア3大学が実施するサービスラーニング（2月23日～3月14日）へ、香川大学からは20名が参加した。現地では、地元自治体の長の依頼による地域活性化のための活動や、地域の生活環境改善に向けた活動などに取り組んだ。

(3) 大学院レベルにおけるインドネシアとのジョイントプログラム

インドネシアにおいて大学院修士課程又は博士課程に在籍する学生を香川大学で受け入れて指導を行った。修士レベルでは平成27年度から引き続き在籍する学生4名に対して指導を行ったほか（いずれも平成28年度中に帰国）、平成28年度に新規学生3名を受け入れた。博士レベルでは新規学生1名を受け入れた。

なお、本年度の総会がガジャマダ大学にて9月24～26日に開催された。ここにおいて、次年度以降も本プログラムを継続すべく、関係6大学の代表者が新たな覚書に調印した。また、本プログラムは平成24年度から文部科学省「大学の世界展開力事業」による支援を受けてきたが、平成28年度がその最終年度となった。そのため、ガジャマダ大学で開催された本年度の総会において今後の継続に向けた議論が行われた。

総会ではプログラムの継続に関する議論のほか、各大学の関係教員、本年度プログラムに参加した学生による発表等も行い、関係者間での連携をますます深めた。

JICA との連携

インターナショナルオフィス 熊谷 信 広

平成28年度における JICA との連携は、JICA から本学出向職員を中心に、JICA 四国と連携し、以下の業務を実施した。

(1) 授業の担当

- 「国際協力論」
- 留学生対象英語講義 「初級日本事情 b」
- 「Study Abroad」
- 「Project Sanuki」(講義及び論文指導)
- 「国際社会と日本・日本語」
- 「海外体験型異文化コミュニケーション」講義 (以上、全学共通科目)
- 工学部大学院生対象「国際・技術戦略論」
- 医学部看護学科「国際看護学」
- 経済学部「現代経済社会事情」

(2) 国際交流事業の運営

- JICA 事業に係る本学関係者・JICA 間のコーディネート
- 上記事業申請等に係る申請業務、本学関係者への助言指導
- JICA 事業で受け入れた外国人に対する指導及び支援
- 海外留学において国際協力に関連する活動を行おうとする日本人学生への指導
- English Café 運営に係るネイティブ教員のコーディネート
- トビタテ！留学 JAPAN 地域人材コースにおける地域コーディネーター
- 香川県内留学生を対象とした県内視察ツアー随員

(3) JICA プログラムの導入

- 課題別研修採択：アフリカ英語圏村落給水プログラムコースへの参加
- 国別特設研修 (ラオス) 実施：「コミュニティ・イニシアティブによる初等教育改善」
- 課題別研修 ICT 利用による遠隔医療プログラム課題別研修提案
- 青年研修提案：パキスタン総合防災教育
- 日系研修提案：柔道及び日本事情
- ABE イニシアティブ (アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ)：
修士課程及びインターンシッププログラム長期研修員受け入れ (経済学部、農学部)
- 草の根技術協力：「カンボジア国カンダルスタン郡の衛生教育改善のための学校保健室体制の構築プロジェクト」採択；事業実施前現地調査実施提案
- インドネシア JICA 案件外部事後評価への専門家として教育学部教授派遣
- 青年海外協力隊春・秋募集説明実施、個別相談会開催
- JICA 大学生国際協力フィールドスタディ・プログラム学生参加
- JICA 国内インターン研修実施

以上

Report on the 6th Joint Symposium between Chiang Mai University and Kagawa University

Lrong Lim, International Office

Chiang Mai University (CMU) is designated as one of the three most important overseas partner universities of Kagawa University (KU). A major event held to symbolize this partnership is the Joint Symposium that has been held since 2007. Chiang Mai University hosted the 1st, 3rd, and 5th symposiums, while Kagawa University hosted the 2nd and 4th symposium. For the 6th symposium, Kagawa University was once again privileged to host the event from 27th to 30th August 2016.

No.	Year	Dates	Host
1	2007	13 – 14 Dec	CMU
2	2008	15 – 18 Oct	KU
3	2010	24 – 26 Aug	CMU
4	2012	19 – 21 Sep	KU
5	2014	10 – 12 Sep	CMU
6	2016	27 – 30 Aug	KU

The theme for this symposium was Healthy Aging and Sustainable Society. This year marked the 10th year of the Joint Symposium, as well as the 10th year of collaboration between the Faculties of Medicine of both universities.

The CMU delegation arrived at Kansai International Airport on late evening of 26th August, Friday. Two KU staff members welcomed the delegation and accompanied them by limousine bus to Takamatsu, arriving in the early hours of 27th August, Saturday.

After breakfast, KU conducted the excursion trip to East Kagawa City, whereby the CMU delegates were introduced to the yellow tail fish farms, among other attractions. Many delegates were impressed to witness how the yellow tail fish were processed. In the evening, CMU delegates enjoyed a meal of Sanuki udon, cooked in the local, traditional manner.

The Symposium officially kicked off on the morning of 28th August, Sunday. President Nagao presented a welcome address to the CMU delegates, while CMU Assistant President Piyapong thanked KU for the hospitality and for hosting the event. The Poster and Parallel Sessions were conducted thereafter. The Welcome Banquet was held at the Hanajukai Hotel.

The second day, 29th August, Monday, was filled with presentations at the Parallel Sessions for all the five sub-themes. In the evening, the Farewell Banquet was conducted at Hotel Righa

Zeist. The highlights were the presentation of the Best Poster Awards to the students, followed by a dance performance by the Thai graduate students of KU.

The final day consisted of Parallel Sessions, as well as the overall Panel Session. After lunch at the University Cafeteria, the CMU delegates were led to a shopping mall in the city. After some shopping, the delegates headed for Kansai International Airport in the evening.

As in previous symposiums, there were some minor hitches, but on the whole, the event proceeded smoothly. The KU Faculty of Economics played a big part in organizing and executing the excursion event. The Parallel Sessions were well handled by the Chairs from the respective faculties. We appreciated their valuable assistance and thank them for their excellent cooperation.

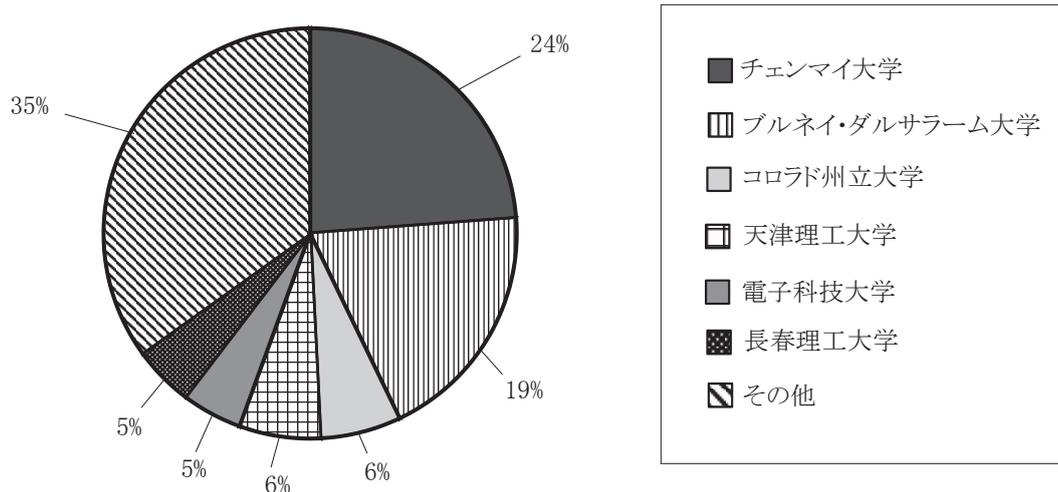
We thank Kagawa Prefecture and Takamatsu Convention Bureau, for the financial assistance rendered. This assistance enabled us to provide the necessary accommodation facilities, among other services to the CMU delegates.

And of course, last but not least, much gratitude is also due to the staff members of International Office and the Administrative Group for all the hard work put in.

We look forward to the 7th Joint Symposium, which is slated to be held at CMU in 2018.

学術交流協定締結校との交流状況（教職員受け入れ）

受け入れ人数推移（協定校別）

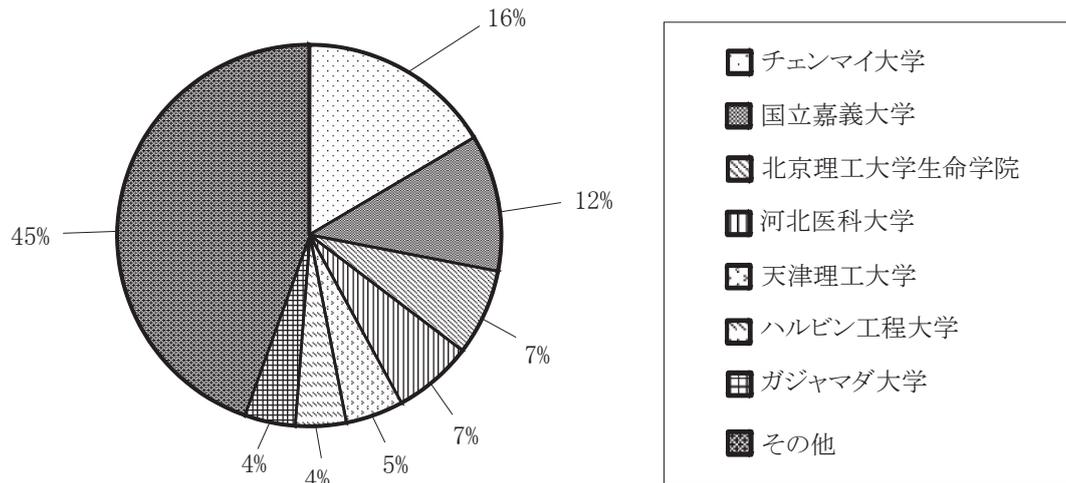


学術交流協定締結校からの受け入れ	人 数
チェンマイ大学	15
ブルネイ・ダルサラーム大学	12
コロラド州立大学	4
天津理工大学	4
電子科技大学	3
長春理工大学	3
カセサート大学	2
メチョー大学	2
ハルビン工程大学	2
ミュンヘン工科大学	1
韓国海洋大学	1
西北大学	1
南ボヘミア大学	1

学術交流協定締結校からの受け入れ	人 数
ハンバット大学	1
シェレバングラ農科大学	1
浙江工商大学	1
ディポネゴロ大学	1
国立嘉義大学	1
ハノイ工科大学	1
クライストチャーチ・ポリテクニク工科大学	1
カルガリー大学医学部	1
河北医科大学	1
ブルネイ・ダルサラーム国保健省	1
北京師範大学化学学院	1
宝鷄文理学院化学化工学院	1

学術交流協定締結校との交流状況（教職員派遣）

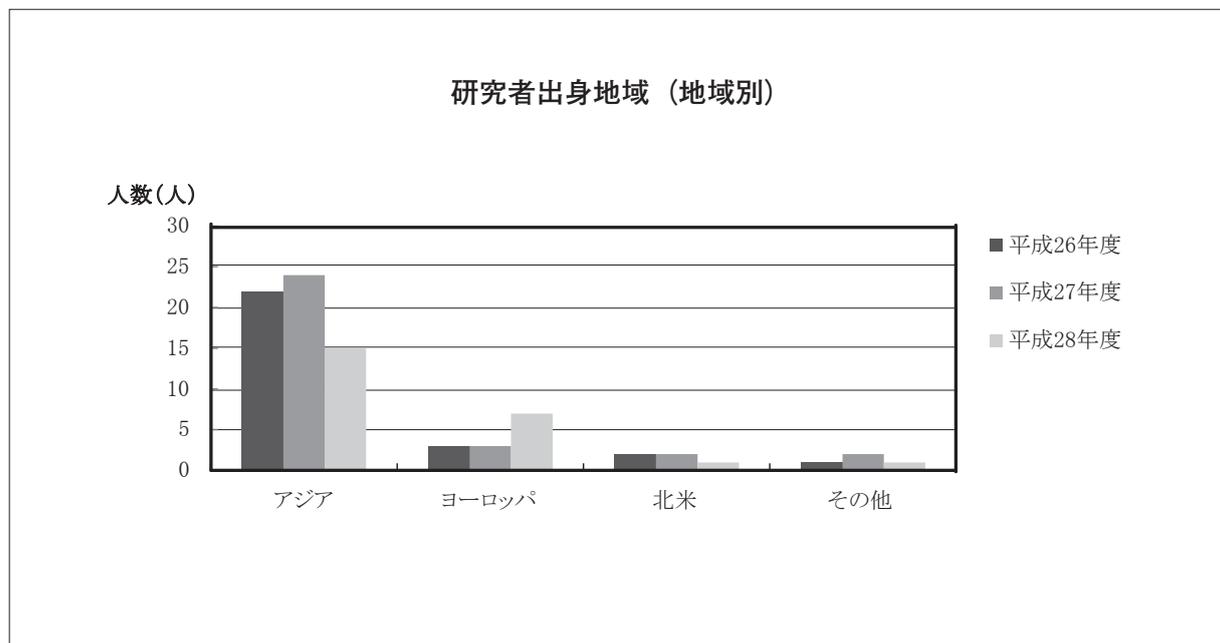
派遣人数推移（協定校別）



学術交流協定締結校への派遣	人数
チェンマイ大学	27
国立嘉義大学	19
北京理工大学生命学院	12
河北医科大学	11
天津理工大学	8
ハルビン工程大学	7
ガジャマダ大学	7
聖公会大学校	5
東西大学校	5
メチヨー大学	4
電子科技大学	4
長春理工大学	4
ガウハチ大学地理学科	4
インド工科大学グワハチ校	4
ノースイースタンヒル大学地理学科	4
真理大学	3
ハンバット大学	3
カセサート大学	2
コロラド州立大学	2
西北大学	2

学術交流協定締結校への派遣	人数
ブルネイ・ダルサラーム大学	2
チュラロンコン大学	2
トリブバン大学	2
王立農業大学	2
アサンプション大学	2
宝鷄文理学院化学化工学院	2
ボゴール農業大学農学部及び大学院研究科	2
ルイビル大学	1
南京農業大学	1
ミュンヘン工科大学	1
上海大学	1
アアルト大学化学技術学部	1
南ボヘミア大学	1
シェレバングラ農科大学	1
セントピーターズバーグ大学	1
浙江工商大学	1
ハルムスタッド大学	1
アルビ鉱山大学	1
ダッカ大学生物科学部	1
ナポリフェデリコ2世大学農学部	1

外国人研究者等の受け入れ状況



【地域別】

（単位：人）

	アジア	ヨーロッパ	北米	その他	合計
平成 26 年度	22	3	2	1	28
平成 27 年度	24	3	2	2	31
平成 28 年度	15	7	1	1	24

【国 別】

アジア（単位：人）

国 名	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
インド	0	1	1
インドネシア	2	2	2
韓国	0	0	1
タイ	3	4	2
中国	8	7	3
台湾	1	2	2
バングラデシュ	3	2	1
フィリピン	1	0	0
ベトナム	2	2	3
マレーシア	2	0	0
スリランカ	3	1	0
モンゴル	1	2	0

ヨーロッパ（単位：人）

国 名	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
ベルギー	2	1	3
スウェーデン	0	0	1
イギリス	1	0	3
フランス	0	1	0
イタリア	0	1	0

北米（単位：人）

国 名	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
アメリカ	2	2	1

アフリカ（単位：人）

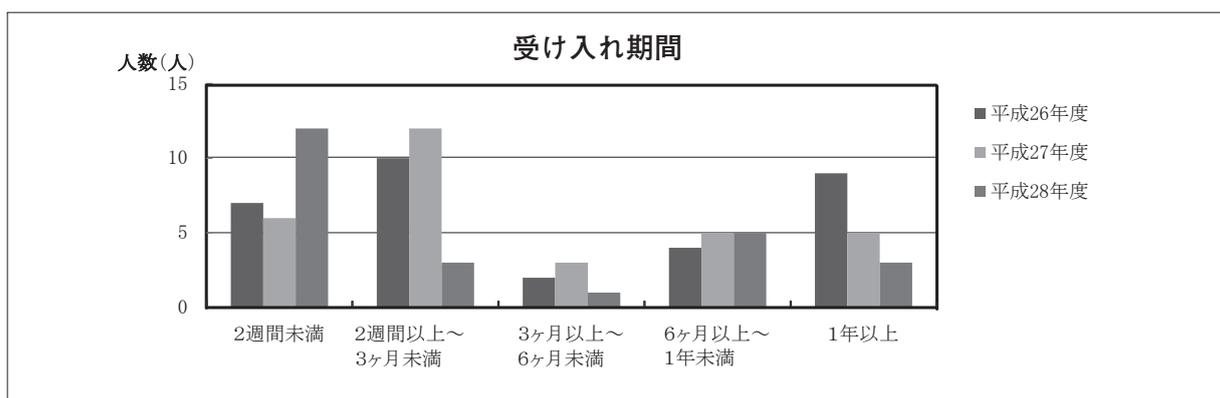
国 名	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
エジプト	1	2	0

中東（単位：人）

国 名	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
トルコ	0	0	1

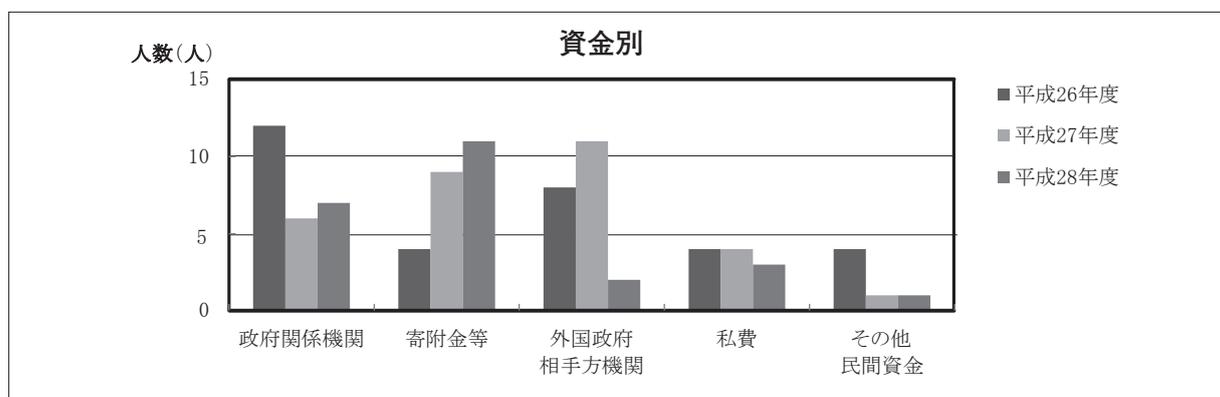
オセアニア（単位：人）

国 名	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
ニュージーランド	0	1	0



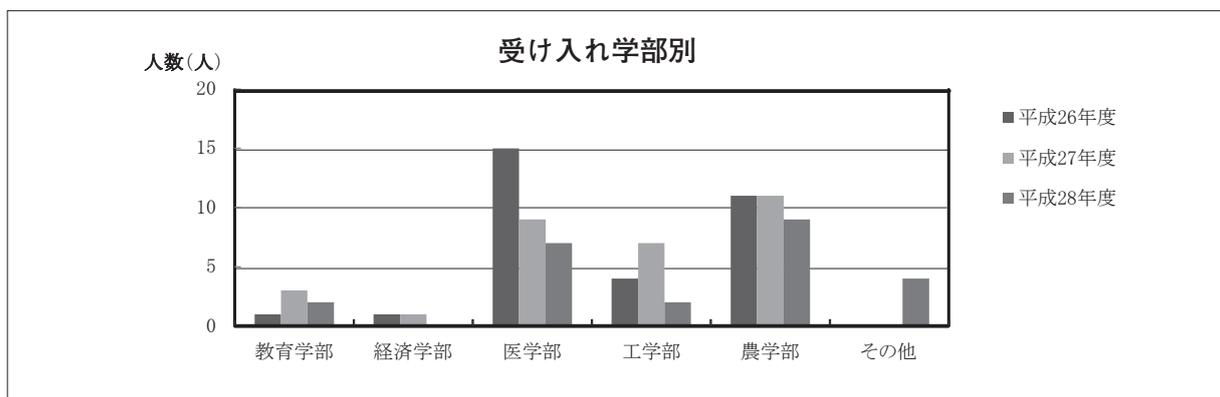
【受け入れ期間別】 (単位：人)

年 度	2 週 間 未 満	2 週 間 以 上 ～ 3 ヶ 月 未 満	3 ヶ 月 以 上 ～ 6 ヶ 月 未 満	6 ヶ 月 以 上 ～ 1 年 未 満	1 年 以 上	合 計
平成26年度	7	10	2	4	9	32
平成27年度	6	12	3	5	5	31
平成28年度	12	3	1	5	3	24



【資金別】 (単位：人)

年 度	政府関係機関	寄 附 金 等	外国政府相手方機関	私 費	そ の 他 民間資金	合 計
平成26年度	12	4	8	4	4	32
平成27年度	6	9	11	4	1	31
平成28年度	7	11	2	3	1	24



【受け入れ学部別】 (単位：人)

年 度	教育学部	経済学部	医学部	工学部	農学部	その他	合計
平成26年度	1	1	15	4	11	0	32
平成27年度	3	1	9	7	11	0	31
平成28年度	2	0	7	2	9	4	24

平成 28 年度 国際学会・国際シンポジウム等開催状況

No.	学会・シンポ等名称 (英語名並記)	開催期間	開催場所	招へい外国人研究者	主催・共催	主催部局等名	担当教員	参加者数
1	Mathematical and geographical modelling for environmental humanities	10/31 - 11/1	Kyoto University	Juyong Park他	主催	教育学部	青木高明	20名
2	Workshop on multitrack event-trains in neural, social, seismological, and financial data	11/9 - 11/10	National Institute of Informatics (NII)	Patricia Reynaud-Bouret	主催	教育学部	青木高明	20名
3	Workshop on multitrack event-trains in neural, social, seismological, and financial data	7/17 - 7/18	International Seminar House for Advanced Studies, National Institute of Informatics (NII)	Lubomir Kostal	主催	教育学部	青木高明	12名
4	2016年IEEEメカトロニクスとオートメーションに関する国際会議 (The 2016 IEEE International Conference on Mechatronics and Automation)	8/7 - 8/10	中国ハルビン市	1. Prof. Andrew F. Laine Percy K. and Vida L.W. Hudson Professor Chair, Department of Biomedical Engineering Professor of Radiology (Physics), Department of Radiology Director, Heffner Biomedical Imaging Laboratory Columbia University, New York, NY, USA E-mail: LAINE@columbia.edu 2. Prof. Henrik Hautop Lund, Ph.D. Professor and Director Electrical Engineering Department Director Center for Playware Technical University of Denmark E-mail: hhl@playware.dtu.dk www.playware.elektro.dtu.dk 3. Prof. Kevin M. Lynch, Ph.D. Professor and Chair Mechanical Engineering Department Neuroscience and Robotics Lab (NxR) Northwestern University http://nxr.northwestern.edu	共催	工学部	郭 書祥 (プログラム委員長、組織委員長) 平田英之 石原、澤田、鈴木、高橋 (組織委員)	470名 (32の国と地域)

No.	学会・シンポ等名称 (英語名並記)	開催期間	開催場所	招へい外国人研究者	主催・共催	主催部局等名	担当教員	参加者人数
5	ICESSE2017 (電気学会C部門との共催)	11/14 - 11/16	サンポート ホール高松・ 国際会議場	陳建彰(台湾淡江大學)	主催	工学部 香川大学 総合情報 センター に後援を 依頼	実行 委員長: 今井慈郎 同副 委員長: 安藤一秋	50名
6	ICIA2017	11/14 - 11/16	サンポート ホール高松・ 国際会議場	陳建彰(台湾淡江大學)	主催	工学部 香川大学 総合情報 センター に後援を 依頼	実行 委員長: 今井慈郎 同副 委員長: 安藤一秋	
7	第6回国際希少糖学会シ ンポジウム	11/24 - 11/26	かがわ国際 会議場	SUPAWAN BURANAPINほか	主催	国際希少 糖研究教 育機構/ 医学部/ 農学部	何森 健、 徳田雅明、 秋光和也 ほか	200 名
8	Optimizing Health Care Quality: Teamwork in Education Research and Practice	6/22 - 6/24	The Empress Convention Center、 チェンマイ 市、タイ国	我々が訪問	共催	医学部	徳田雅明、 清水裕子、 谷本公恵 ほか	250 名
9	第6回香川大学・チェンマ イ大学合同シンポジウム	8/27 - 8/30	香川大学	医学部からは Dr. Watana, Dr. Kom ほか11名が参加	主催	医学部	徳田雅明、 和田健司 ほか	150 名
10	第6回国際希少糖学会 (Rare Sugar Congress 2016)	11/24 - 11/26	かがわ国際 会議場	George William John Fleet (ジョージ・ウィリアム・ ジョン・フリート)他	共催	国際希少 糖研究教 育機構	秋光和也	200 名
11	地震国における災害 軽減研究に関する 国際シンポジウム ～リアルタイム監視シス テム、シミュレーション、 観測と教育について～ (International Symposium on Disaster Mitigation Researches in Earthquake-Prone Countries-Real time monitoring systems, simulations, observations and educations)	2/18	工学部 6201講義室	Bambang Setyadji Nuraini Rahma Hanifa Yu-Lien Yeh	主催	四国危機 管理教育・ 研究・地域 連携推進 機構	金田義行	38名

日本語教育カリキュラム等の報告

インターナショナルオフィス 高水 徹

1. 概要

インターナショナルオフィス留学生センターが平成28年度に提供した日本語教育関連科目等は、以下の通りである。

- ① さぬきプログラム生および国費予備教育生対象日本語研修コース（初級および初中級）
- ② 日本語講座
- ③ 医学部における日本語サロン
- ④ 日本の食の安全特別コースの日本語関連科目

平成28年度開講の日本語研修コースは、前期は国費の予備教育生およびさぬきプログラムを主な対象として、後期はさぬきプログラム生を主な対象として実施した。前期のレベルは初級で、後期のレベルは初中級であった。

2. それぞれの科目に関する記述

- ① さぬきプログラム生および国費予備教育生対象日本語研修コース（初級）

日本語研修コースは、国費留学生の予備教育として、また、さぬきプログラムの一環として開講されるコースで、集中的に日本語を習得する。毎日開講される「日本語」の他、週2コマの「初級日本事情」および経済学部開講の同趣旨の授業を含んでいる。

平成28年度前期は、国費留学生（予備教育）1名およびさぬきプログラム生3名が主な対象であった。後期は、さぬきプログラムの受講生1名が主な対象となった。学生のレベルに合わせ、前期は初級、後期は初中級の授業が行われた。

使用教材は『みんなの日本語』で、初級においては、発音、ひらがなから始め、何とか25課までは終了できたが、例年と比較して、遅めのペースであった。初中級は、『みんなの日本語 初級Ⅱ』から開始し、12月ごろには50課を終え、『みんなの日本語 中級Ⅰ』に入り、最終的には7課まで終了することができた。

英語による日本事情の充実や、他コースの留学生および日本人学生との交流等の相乗効果で、習得した日本語の知識の活用も積極的になされたようである。担当教員は日本語が専任教員1名、非常勤講師1名、日本事情が専任教員1名、客員教員1名である。ただし、28年度は専任の日本語担当教員が例年より少なかったため、非常勤講師のコマ数を増やして実施した。

なお、28年度までの留学生センター所属の国費留学生に関するデータは、本稿末尾に掲載している。

- ② 日本語講座

このカテゴリーの授業は、学生が自分の都合のよい時間に、内容およびレベルを選択して受講することができる。これらの授業は、本学に所属する学生が日本語力を向上させるためのもの

のであり、単位の付与はない。

③ 医学部における日本語サロン

医学部の留学生のため、地元香川で日本語学習支援・生活支援を行っているボランティア団体である「わ」の会にお願いして、サロンを開催していただいている。以前は日本語レベルの高い学生も対象としていたが、現在では、対象を入門または初級に絞って実施している。

④ 日本の食の安全特別コースの日本語関連科目

これらの科目はアジア人財資金構想（高度専門留學生育成事業）の科目を引き継いで以降、「アジア人財日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」「ビジネス日本語Ⅰ、Ⅱ」「ビジネス教育Ⅰ」で構成されていた。しかし、対象学生の日本語力を引き上げ、卒業時にN2程度という卒業要件を満たすという必要性、および学生からの要望により、「食の安全学生向け補講」として科目数を増加させた。

以上に加え、留学生センター以外から提供される以下の授業科目も、一覧に掲載されている。

⑤ 全学共通科目の日本語・日本事情（大学教育開発センター提供、表中※で表記、単位あり）

⑥ 農学研究科AAPコースの日本語・日本事情

⑤はその編成および実施の一部を大学教育開発センターのコーディネーターとして留学生センター教員が担当している。⑥は農学研究科における英語によるコース（修士課程）の中で、必修化されている日本語および日本事情に関する科目で、その編成および実施を留学生センターが担当している。

これらに関しては、国際ナショナルオフィス留学生センターが直接提供しているわけではないが、カリキュラム、非常勤講師の調整、運営等を留学生センターまたはその教員が主導している。

留学生に対するこれらの授業に関する周知は、以下の一覧に基づき、新入留学生対象のガイドンスや掲示、ネット上の掲載を通して行っている。

平成28年度 前期 日本語関連授業一覧 / 2016 Spring Semester Japanese Language Classes

曜日	幸町キャンパス Saiwai-cho Campus	農学部キャンパス Faculty of Agriculture	医学部キャンパス Faculty of Medicine	工学部キャンパス Faculty of Engineering			
月 Mon	1						
	2	※★初級日本語 I a Elementary Japanese I a	高水 Takamizu				
	3	※★初級日本語 I a Elementary Japanese I a	高水 Takamizu				
		日本語基礎(中級) Upper Elementary Japanese	黒川 Kurokawa				
		※日本語Ia(中級) Japanese Ia (Intermediate)	山下(直) Yamashita, N.				
※日本語IIIa(中上級) Japanese IIIa (Upper Intermediate)	轟木 Todoroki						
4	日本語基礎(中級) Upper Elementary Japanese	黒川 Kurokawa					
	※★初級日本事情 b Japanese current affairs b (Elementary) ; Japanese Official Development Assistance toward the developing countries	熊谷 Kumagai					
5							
火 Tue	1						
	2	★初級日本語 Elementary Japanese	和田 Wada	サバイバル日本語 (初級) Survival Japanese (Elementary)	早川 Hayakawa		
	3	★初級日本語 Elementary Japanese	和田 Wada				
	4	中級日本語 Intermediate Japanese	秋田 Akita				
		中級日本語 Intermediate Japanese	秋田 Akita	日本語基礎 II Basic Japanese II (Intermediate) 15:00~16:30	青木 Aoki		
5			ビジネス日本語 I Business Japanese I (Upper Intermediate) 16:40~18:10	青木 Aoki			
水 Wed	1						
	2	★初級日本語 Elementary Japanese	和田 Wada	科学技術日本語 Japanese for Science and Technology	早川 Hayakawa		
	3	★初級日本語 Elementary Japanese	和田 Wada	日本語基礎(中上級) Basic Japanese (Upper Intermediate) 14:00~15:30	高水 Takamizu	○日本語サロン(初級) Lang. Salon Class (Elementary) 14:00~15:30	「わ」の会
	4	※日本事情 Ib Japanese Affairs Ib	正楽 Shoraku				
	5	※★初級日本事情 a Japanese current affairs a (Elementary) ; International society and Japan	正楽 Shoraku	日本語基礎(中上級) Basic Japanese (Upper Intermediate) 15:40~17:10	高水 Takamizu		
木 Thu	1						
	2	※★初級日本語 I b Elementary Japanese I b	高水 Takamizu				
	3	※日本語 Vb(上級) Japanese Vb (Advanced)	佐藤 Sato				
		※★初級日本語 I b Elementary Japanese I b	高水 Takamizu				
		※日本語 Ib(中級) Japanese Ib (Intermediate)	山下(明) Yamashita,T.				
4	※日本語IIIb(中上級) Japanese IIIb (Upper Intermediate)	佐藤 Sato					
5	※★プロジェクトさぬき Project Sanuki (Research based course about Kagawa)	ロン他 Lrong and others			☆初中級 1 Upper Elementary 1	児島 Kojima	
5	※★プロジェクトさぬき Project Sanuki (Research based course about Kagawa)	ロン他 Lrong and others			☆初中級 2 Upper Elementary 2	児島 Kojima	
金 Fri	1	※★初級日本語Ic Elementary Japanese Ic	高水 Takamizu				
	2	※★初級日本語Ic Elementary Japanese Ic	高水 Takamizu				
		※日本語Va(上級) Japanese Va (Advanced)	早川 Hayakawa				
	3	※日本事情 Ia Japanese Affairs Ia	早川 Hayakawa				
	4	★(特)Globalization in the higher education sector: trends, issues, and strategies	ロン Lrong				
5							

平成 28 年度 後期 日本語関連授業一覧 / 2016 Fall Semester Japanese Language Classes

曜日	幸町キャンパス Saiwai-cho Campus	農学部キャンパス Faculty of Agriculture	医学部キャンパス Faculty of Medicine	工学部キャンパス Faculty of Engineering		
月 Mon	1					
	2	※★初級日本語 I a Elementary Japanese I a	高水 Takamizu			
	3	※★初級日本語 I a Elementary Japanese Ia	高水 Takamizu			
	3	※日本語 IVa(中上級) Japanese IVa (Upper Intermediate)	轟木 Todoroki			
	4	※★初級日本事情 b Japanese current affairs b (Elementary) ; Japanese Official Development Assistance toward the developing countries	熊谷 Kumagai			
5						
火 Tue	1					
	2	★初級日本語 Elementary Japanese	和田 Wada	ビジネス日本語 II Business Japanese II (Upper intermediate)	宝山 Hozan	
	2	※日本語 I c(中級) Japanese I c (Intermediate)	高水 Takamizu	日本事情・地域交流 Studies on Japanese Culture/ Community Exchange (Elementary)	早川 Hayakawa	
	3	※日本語 IVb(中上級) Japanese IVb (Upper Intermediate)	山下(明) Yamashita, T.			
	3	★初級日本語 Elementary Japanese	和田 Wada	ビジネス教育 I Japanese business manner and culture I (Upper intermediate)	宝山 Hozan	
4			日本語基礎 I Basic Japanese I (Upper Elementary) 15:00~16:30	青木 Aoki		
5			日本語基礎 I Basic Japanese I (Upper Elementary) 16:40~18:10	青木 Aoki		
水 Wed	1					
	2	★初級日本語 Elementary Japanese	和田 Wada	新入生セミナー (初級日本語) 1st year student seminar (Elementary Japanese)	早川 Hayakawa	
	3	※日本語 II a(中級) Japanese Ia (Intermediate)	佐藤 Sato			
	3	★初級日本語 Elementary Japanese	和田 Wada		○日本語サロン(初級) Lang. Salon Class (Elementary) 14:00~15:30	「わ」の会
	4	※日本語 II b(中級) Japanese Ib (Intermediate)	佐藤 Sato	日本語基礎 III Basic Japanese (Upper Intermediate) 14:00~15:30	高水 Takamizu	
5			日本語基礎 III Basic Japanese (Upper Intermediate) 15:40~17:10	高水 Takamizu		
木 Thu	1					
	2	※★初級日本語 I b Elementary Japanese I b	高水 Takamizu			
	2	※日本語 VIb(上級) Japanese VIb (Advanced)	山下(直) Yamashita, N.			
	3	※★初級日本語 I b Elementary Japanese Ib	高水 Takamizu			
	3	※日本事情 II a Japanese Affairs II a (Advanced)	ロン Lrong			
4	※★プロジェクトさぬき Project Sanuki (Research based course about Kagawa)	ロン他 Lrong and others			初中級 1 Upper Elementary 1	児島 Kojima
5	※★プロジェクトさぬき Project Sanuki (Research based course about Kagawa)	ロン他 Lrong and others			初中級 2 Upper Elementary 2	児島 Kojima
金 Fri	1	※★初級日本語 I c Elementary Japanese	高水 Takamizu			
	2	日本語基礎(初中級) (Upper Elementary)	黒川 Kurokawa			
	2	※★初級日本語 I c Elementary Japanese	高水 Takamizu			
	2	※日本語 VIa(上級) Japanese VIa (Advanced)	早川 Hayakawa			
	3	日本語基礎(初中級) (Upper Elementary)	黒川 Kurokawa			
3	※日本語 II c(中級) Japanese IIc (Intermediate)	早川 Hayakawa				
4	中上級日本語 Upper Intermediate Japanese	秋田 Akita				
4	中上級日本語 Upper Intermediate Japanese	秋田 Akita				
5						

留学生センター所属国費留学生

期 間	国 籍	人 数	予 備 教 育 後 の 所 属
2003年10月～2004年3月	コ ス タ リ カ	1	教育学部（教員研修）
2004年4月～2004年9月	ドミニカ共和国	1	経済学 研究科
	ベ ト ナ ム	1	経済学 研究科
2004年10月～2005年3月		0	
2005年4月～2005年9月	アルゼンチン	1	医学系 研究科
	エジプト	1	医学系 研究科
	パプアニューギニア	1	医学系 研究科
2005年10月～2006年3月	フ ィ リ ピ ン	1	教育学部（教員研修）
2006年4月～2006年9月		0	
2006年10月～2007年3月		0	
2007年4月～2007年9月		0	
2007年10月～2008年3月		0	
2008年4月～2008年9月		0	
2008年10月～2009年3月	フ ィ リ ピ ン	1	教育学部（教員研修）
2009年4月～2009年9月	ジ ン バ ブ エ	1	農 学 研 究 科
2009年10月～2010年3月	ペ ル ー	1	教育学部（教員研修）
2010年4月～2010年9月		0	
2010年10月～2011年3月	カ ン ボ ジ ア	1	教育学部（教員研修）
	ホ ン ジ ュ ラ ス	1	教育学部（教員研修）
2011年4月～2011年9月		0	
2011年10月～2012年3月	インドネシア	1	教育学部（教員研修）
	マ レ ー シ ア	1	教育学部（教員研修）
2012年4月～2012年9月	ロ シ ア	1	経済学 研究科
2012年10月～2013年3月		0	
2013年4月～2013年9月		0	
2013年10月～2014年3月	フ ィ リ ピ ン	1	教育学部（教員研修）
	ラ オ ス	1	教育学部（教員研修）
2014年4月～2014年9月		0	
2014年10月～2015年3月	インドネシア	1	教育学部（教員研修）
	コ ス タ リ カ	1	教育学部（教員研修）
2015年4月～2015年9月	バ ン グ ラ デ シ ュ	2	農 学 研 究 科
2015年10月～2015年3月		0	
2015年10月～2016年9月	メ キ シ コ	1	
	ミ ャ ン マ ー	1	
2016年4月～2016年9月	セ ネ ガ ル	1	工 学 部 （ 研 究 生 ）
2016年10月～2017年3月		0	

相談（交流推進）事業の報告

インターナショナルオフィス ロン リム

平成28年度の相談事業を報告する。本学の留学生相談担当は、インターナショナルオフィス教職員が対応している。留学生への相談業務の案内及び周知方法は、学内掲示板やインターネットを通して実施している。記録を取っているのは、正式に担当している教員1名だけである。この報告は、その記録に基づいたものである。計算の仕方は、1回の相談は、1回と数える。相談内容及び深刻さによって、数回に渡って、相談しに来たり、報告を求めたりするケースもある。記録の期間は平成28年の暦の12か月（1月～12月）を使用した。相談件数は348件となっている。

<相談のルート>

まず、相談のルート（表1参照）から見ると、もっと多かったのは、メールを通じた相談だった。件数は251件だった。次に、来室での相談は82件だった。学外での相談は8件で、電話での相談は7件だった。初めての相談あるいは問い合わせとして、メールを使用したケースが多いと思われる。

表1：相談方法 (件)

相談方法/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
メール	12	13	7	20	22	31	32	32	9	15	36	22	251
電話	2			2				1			1	1	7
来室での相談	16	10	14	17	4	12	7	1		1			82
学外相談での相談			1		1	2	2	1			1		8
合計	30	23	22	39	27	45	41	35	9	16	38	23	348

<相談者>

次に、相談者あるいは相談の相手別（表2参照）を見ると、教職員との相談件数（109件）は、もっとも多かった。二番目に多かったのは、留学生との相談だった。これは79件だった。引き続きの件数順番は、国内外の外部教職員（71件）、国内外の外部学生（38件）、一般の方々（27件）、日本人学生（24件）だった。

表2：相談者 (件)

相談者/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
留学生	4	2	7	12	5	7	10	5	1	5	16	5	79
日本人学生		3	2	4	2		6	2	1		2	2	24
教職員	19	13	8	18	8	15	8	9		2	7	2	109
一般	3		1	2		8	4	3	1	3	1	1	27
外部学生				1	4	7	7	9	2	2	3	3	38
外部教職員	4	5	4	2	8	8	6	7	4	4	9	10	71
合計	30	23	22	39	27	45	41	35	9	16	38	23	348

<相談内容>

表3：相談内容 (件)

相談内容/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
情報交換関係	12	5	1	4	3	4	4	2		2			37
学業関係	10	9	7	8	6	13	19	18	2	2	6	5	105
生活一般			2	8	1	1		1					13
就職・アルバイト		1											1
国際交流・サークル活動	7	3	6	12	7	13	12	9	3	9	20	6	107
学術交流関係	1	5	4	5	10	10	5	5	4	3	12	12	76
経済問題(奨学金、授業料)						2							2
トラブル関係(人間関係)			1										1
指導教員とのトラブル			1	2		1	1						5
ハラスメント						1							1
合計	30	23	22	39	27	45	41	35	9	16	38	23	348

引き続き、相談の内容について、報告する。二桁の件数を記録したのは、5つの内容だった。多い順番から記載すると、国際交流・サークル活動(107件)と学業関係の相談(105件)、学術交流関係(76件)、情報交換関係(37件)、生活一般(13件)である。一桁で割りと件数の少ない相談内容は、指導教員とのトラブル(5件)、経済問題(2件)で、そして就職・アルバイトやハラスメント、人間関係を含むトラブル関係(各1件)である。

大半の相談は、相応の対応をすれば、殆ど無事に済ませられるものが多いのだが、もっとも時間や労力をかけた事項は、やはり指導教員とのトラブルである。

最後に、過去5年間のデータと比較をしてみる。

表4：過去5年間のデータとの比較 (件)

相談内容	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
情報交換関係(情報収集・提供、挨拶)	32	18	29	47	49	37
学業関係(入学、進学、研究、学習、見学)	99	71	98	126	74	105
入管関係(入管、ビザ、在留)	6	2	6	4	8	
医療関係	3	7		3	2	
生活一般(住居、日常生活、チューター)	24	33	7	28	15	13
就職・アルバイト・チューター関係	2	6	9	1	4	1
国際交流・サークル活動	65	74	79	57	69	107
学術交流関係(海外大学協定など)	21	17	28	42	38	76
経済問題(奨学金、授業料)	5	2	6	1	3	2
トラブル関係(人間関係など)	42	45	4	2	4	1
交通事故				2	10	1
指導教員とのトラブル				1	5	7
名誉棄損				15		
暴力事件				2		
ハラスメント				3	6	1
盗難被害				1	2	
犯罪の加害				1	1	
合計	299	275	291	326	283	348

まず、件数として、過去のデータと比べたら、少々増えている。過去のデータによると件数は殆ど200件台だったが、300件を超えたのは2014年に1度あった。前年の相談と比較すると、今回の相談内容はさほど深刻ではなかった。

これから、留学生の受け入れや日本人学生の海外派遣はますます増えていくと予想する。そのため、今後とも一層相談の対応をしてみたいと思っている。

全学共通科目「Study Abroad」授業の報告

インターナショナルオフィス ロン リム

全国的に、日本人学生の海外留学志向は高くないといわれている中、本学は平成25年度に「4 & 1プラン」という計画を発足した。目的の一つは、10年後に、100名の日本人学生を海外へ送るとのことだ。グローバル人材育成の一環として、3ヵ月以上の海外滞在が望ましいのだが、簡単に行けるとは言えないだろう。様々な理由があるが、その一つは、海外留学や研修をするメリットやモチベーションがあまり見えないということは考えられる。

その関係で、少しでも行きやすくなる取り組みとして、本授業を提供している。まず、プログラムは大学の休暇中に実施されるので、受講生にとって、時間のロスはない。基本的に、受講生は海外協定大学で英語の語学研修をする。受け入れ先はカナダのカルガリー大学と西オーストラリア大学である。近年、カルガリー大学のカレンダーは合わないため、ほとんどの学生は西オーストラリア大学で研修をしてくる。研修期間は5週間で、滞在はもっぱらホームステイである。平成28年度に6名の学生が参加した。教育学部からは3名で、そして法学部や経済学部、農学部から各1名である。

受講生は海外渡航の経験はしていないケースもあり、担当教員は、基本のことから指導している。例えば、パスポートの申請や研修先への申請書記入、渡航前の荷作りなどが挙げられる。その上、受講生は本学主催の海外での「危機管理セミナー」に出席する必要がある。

海外で5週間滞在の経験をして帰国の後、より長い海外留学あるいは研修を希望し実行に移してくれることが、我々の狙いである。また、近い将来、研修先を増やして、受講生により幅広い選択肢を提供することを計画中である。

全学共通科目「海外体験型異文化コミュニケーション」(タイにおける研修)の実施

インターナショナルオフィス 高水 徹

インターナショナルオフィスは、全学共通科目として、「海外体験型異文化コミュニケーション」を提供している。この授業は、本学の海外拠点大学である、タイ北部のチェンマイ大学における異文化体験を通して、国際コミュニケーション力を養うことを目的としている。

平成28年度の実施は、本授業の5回目となる。受講生は計4名で、教育学部から3名、工学部から1名であった。学年別では、全員が1年生であった。

第1回から第5回までの参加者数一覧 (名)

No.	期 間	経済	教育	法	工	農	医	男子	女子	1年生	2年生	合計
1	平成24年8月22日 ～9月2日	3	1	1		1		3	3	5	1	6
2	平成25年9月1日 ～14日	3	1	1	1			4	2	5	1	6
3	平成26年8月24日 ～9月6日		2	4		1	1	4	4	4	4	8
4	平成27年8月23日 ～9月5日		4	2				2	4	2	4	6
5	平成28年8月14日 ～8月26日		3	1				2	2	4		4

例年のように、4月から7月までの事前学習では、現地での研修に必要な基礎知識や英語による発表の練習、現地における危機管理や注意事項などを学んだ。チェンマイ大学での研修日程は、8月14日(日)から8月26日(金)であり、本学におけるシンポジウム開催のために、例年より早い実施となった。今回もチェンマイ大学側の受け入れ部署は、インターナショナルカレッジであった。研修には、各種フィールド学習、日系企業見学の他に、英語による本学学生の出身地紹介や、同大学の英語の授業への参加、同大学バディーズとのテーマ別ディスカッションが含まれている(現地研修日程を参照)。

これらの内容は、本学の教室内では学習および体験が難しいものであり、学生にとっては得がたい機会となった。本授業における体験が、より長期の留学につながる流れができつつあり、今後より一層それが強化されることを期待している。



研修中の本学学生と
チェンマイ大学のバディー

2016 KU-CMU SEE Program @ Chiang Mai University, Thailand

(*)

Date	Day	Time	Activity
8月14日	Sun	18:30	Arrive at CNX
			Check in at Grand Wipanan Residence
8月15日	Mon	9:30	Meeting with Buddies at the lake
		11:00	Orientation by Vice President for International Relations and Alumni Affairs Venue: IRD Meeting Room
		12:00	Lunch hosted by Vice President
		14:00	Campus Tour
		18:00	Welcome Party at Lemon Tree Restaurant
8月16日	Tue	10:00	KU-CMU USR Project at Ban Rom Sai
		14:00	Visit Kyocera Display (Thailand) Co., Ltd. Northern Region Industrial Estate
8月17日	Wed	9:00	Thai Cooking class Venue: Da's Organic Farm Hut
		14:00	Old City Orienteering (Arranged by Lrong)
8月18日	Thu	10:00	Museum of World Insects and Natural Wonders (Arranged by Lrong)
		13:30	Thai Language Instructor: Aj. Phatcharakran Intanaga (Aj. Jaja)
8月19日	Fri	9:30	Oral Expression Class Instructor: Aj. Phatcharakran Intanaga (Aj. Jaja)
		13:00	University Social Responsibility (USR) Lecturer: Dr. Pichayalak Pichayakul (Pang) Venue: IC
8月20日	Sat	a.m.	Free time
		p.m.	Free time (Visit Chiang Mai Night Safari)
8月21日	Sun	a.m.	Free time
		17:30	Visit Sunday Walking Street
8月22日	Mon	10:00 ~ 12:00	Doi Suthep Temple Doi Pui (Hmong village)
		13:30	Visit Phatthanakit Bee Farm, Sarapee District
8月23日	Tue	9:00 ~ 14:00	Visit Study Centre of Sufficiency Economy According to His Majesty's Initiative Lunch Experience frog farm, fish farm, mushroom farm
8月24日	Wed	9:00 ~ 11:00	Thai Culture and Etiquette Instructor: Asst. Prof. Dr. Wilailak Saraithong
		13:00 ~ 15:00	Best Practice of Social Enterprise in Thailand: Royal Project Lecturer: Dr. Pichayalak Pichayakul (Pang) Venue: IC
8月25日	Thu	10:30 ~ 12:00	KU students and CMU buddies prepare for final presentation
		14:00 ~ 16:00	Group Presentation by KU-CMU teams
		18:00 ~ 21:00	Farewell Party
8月26日	Fri	12:00	Check out from Grand Wipanan Residence
		17:00	Depart from hotel to airport
		20:50	Depart Chiang Mai for Bangkok
		23:30	Depart Bangkok for Kansai International
8月27日	Sat	7:00	Arrive Kansai International Airport

※ SEE は、「Study Explore Embrace」の頭文字で、チェンマイ大学側が本プログラムにつけた呼称である。

「トビタテ！ 留学 JAPAN 日本代表プログラム」への取り組み

政府だけでなく、社会総掛かりで取り組む留学促進キャンペーン「トビタテ！留学 JAPAN」が平成25年度から開始されている。その中でも「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム～」は、民間企業からの寄附金を原資とし、“産業界を中心に社会で求められる人材”、“世界で、又は世界を視野に入れて活躍できる人材”を育成する海外留学支援制度である。

1. 大学全国コース・大学オープンコースへの取り組み

大学全国コース・大学オープンコースは、自らの明確な目的に基づいた実践的な学びによる育成を焦点に、理系分野、複合・融合分野における留学、新興国への留学、諸外国におけるトップレベルの大学等への留学、将来日本の各地域で活躍することを希望し留学する学生を支援するコースである。

平成26年度から募集を開始し、平成28年度は第5期、第6期派遣留学生の募集があった。本学からはそれぞれ5名、4名が応募し、計2名が採用となった。

インターナショナルオフィスでは、正楽 藍 講師が中心となり応募相談や申請書類の添削、面接試験対策等で学生のサポートを実施した。

2. 地域人材コースへの取り組み

地域人材コースは、各地域において、地域の活性化に資する独自のテーマを設定し、テーマに即した海外留学をする学生の支援をするコースである。

香川県は平成27年度に地域事業「香川地域活性化グローバル人材育成プログラム」を開始し、香川大学国際グループが事務局を担っている。平成28年度は第5期派遣留学生の募集があり、本学からは8名が応募、5名が採用となった。

事業を運営する協議会の運営委員長を徳田 雅明インターナショナルオフィス長が担っており、本学のみならず香川県下高等教育機関のグローバル人材育成に取り組んでいる。また、正楽 講師、熊谷 信広 客員教授が本事業の学生選考委員、地域コーディネーターに任命されており、学生の教育、産学官の連携業務に携わった。

学生の留学に当たっては、正楽講師と熊谷客員教授が中心となり事前オリエンテーション、留学壮行会を開催した。

海外語学研修プログラム（韓国語）の報告

インターナショナルオフィス 高水 徹

インターナショナルオフィスが派遣している韓国語研修先は、大邱大学と建国大学の2大学であったが、昨年度報告した通り、建国大学に関しては、プログラム時期および実施方法の変更により、本学の学生の参加は実質的に不可能となった。そのため、インターナショナルオフィスが担当する韓国語研修で、本学の学生が参加可能な研修先は、学術交流協定校の大邱大学のみとなっている。

同大学における研修は、本学の学生にとって①研修費および宿舎の費用が不徴収、②学習に集中できる環境が整っている、という点で非常に好条件である。①に関しては、同大学から本学への特別聴講学生（交換留学生）の授業料が不徴収となる見返りに、本学から同大学への短期研修の費用が不徴収になる、という覚書に基づいている。②に関しては、本学から韓国語研修へ行く学生は、集中的な学習を望むケースが多かったため、郊外の落ち着いた環境にある同大学での研修は非常に好評であった。

一方で、大邱大学に関しても、学年暦等の関係で毎年派遣が可能なわけではなく、残念ながら27年度を含む数年間は学生を派遣することができなかった。

28年度は3名の学生を派遣することができた。いずれも経済学部の学生で、2年生が1名、1年生が2名である。3名とも上記不徴収の恩恵を受けることができた。

研修日程は平成28年8月8日(月)から8月26日(金)の3週間で、課外授業や見学に参加しながら韓国語を学習するプログラムである。初日にはレベル分けのテストを行う。

上記のように、本研修の経費としては、航空券、交通費、食費、その他雑費のみである。また、教員による引率はなく、現地まで自分で行って、帰ってくるプログラムである。ただし、例年はプサン空港への出迎えが行われており、今回の学生も利用することができた。

学生の宿泊先は、寮であるが、写真のように大変立派なものである。食費も安く、学食で1食約2000ウォンから4500ウォン程度で済んでしまう。パソコンを持っていけば、インターネットに接続することも可能である。

このような環境で、学生たちは非常に充実した研修を行い、無事に帰国した。

なお、本学が海外へ派遣する学生については、25年度より、本学所定の海外旅行保険（包括契約）への加入を義務付けており、渡航先にかかわらずまとめて加入手続きをし、渡航前の危機管理ガイダンスを受けさせたうえで派遣している。



平成 28 年度留学生センター留学生の受け入れ

インターナショナルオフィス 高 水 徹

留学生センターでは、「留学生センター留学生」としていくつかの制度による留学生の受け入れを行っている。

以下に、平成28年度に留学生センターで受け入れた留学生について記す。各プログラムの詳細については、別項「日本語教育カリキュラム等の報告」を参照されたい。

1. 文部科学省 研究留学生

文部科学省外国人留学生制度を利用し、本学大学院への入学を希望する留学生のうち、半年間の日本語予備教育を必要とする者を留学生センターで受け入れ、日本語・日本事情の集中的な教育を行っている。平成28年度には前期にセネガルより男子学生1名を受け入れ、初級の日本語・日本事情教育を行った。この学生は、平成28年10月より所属を工学部へ移し、引き続き研究生として大学院進学に備えている。

2. 文部科学省 教員研修留学生

これも文部科学省外国人留学生の一つで、母国で教員をしている学生が、1年半日本の大学で学ぶため留学するものである。1年半のうち最初の半年間日本語教育を受け、その後の1年間、専門分野の研究・教育実践等を行う。平成28年度には、受け入れ実績はなかった。

3. 文部科学省 日本語・日本文化研修留学生

1・2同様、文部科学省国費留学生の一つであり、本学留学生センターとしては平成26年度後期に初めて2名の受け入れを行った。

平成27年度後期には、メキシコ人男性1名とミャンマー人女性1名の計2名を受け入れたが、平成28年度前期、この2名の学生は継続して研修を行った。これらの学生は中上級以上の日本語授業や全学共通科目、各学部開設の専門科目等を、各自の関心やスケジュールに合わせて積極的に履修し、修了時まで各自で設定したテーマに基づき日本語でレポート作成を行い、研修を終えた。

平成28年度後期は、本プログラムの新たな受け入れ実績はなかった。

4. さぬきプログラム

平成26年度より新たに始めたプログラムである。本学の学术交流協定校に所属し、日本語初級レベルで日本留学を希望する学生を、特別聴講学生として留学生センターで受け入れ、初級日本語・日本事情の教育を行う、1学期間（半年間）のプログラムである。本プログラムの新設により、これまで日本語能力の関係で留学したくてもできなかった学生の受け入れが可能となり、本学の留学生増、キャンパスの国際化に貢献できる。また、上記1・2の初級学生と合同で授業が実施できるため、教育効果や留学生同士の交流促進も期待できる。

平成28年度には、前期にブルネイ・ダルサラーム大学より2名、チェンマイ大学より1名、後

期にブルネイ・ダルサラーム大学より1名をそれぞれ本プログラム4期生、5期生として受け入れた。

5. その他

上記1～4に加えて、大邱大学（韓国）の人文学部日本語日本学科との覚え書き取り交わしによる、科目等履修生としての1学期間（半年間）の受け入れプログラムもあるが、平成28年度は同大からの留学希望者がいなかったため、同プログラムでの受け入れ実績はなかった。

各部局主催の短期受け入れプログラムにおける日本語授業の報告

インターナショナルオフィス 高水 徹

平成23年度より、JASSO による助成を受け、短期で海外から学生を受け入れる「Short Stay プログラム (SS プログラム)」と、短期で日本人学生が海外研修に行く「Short Visit プログラム (SV プログラム)」が実施されるようになった。その後、名称は「留学生交流支援制度」と変わったが、制度としては類似しており、また、上記の「Short Stay プログラム (SS プログラム)」、「Short Visit プログラム (SV プログラム)」という名称は受け入れと派遣を区別する一般的な表現でもあるので、以下でも用いることとする。本学でも、複数のプログラムが採択され、担当部局主導で実施されている。

本報告では、インターナショナルオフィスが平成23年度より授業協力を行っている農学部における SS プログラムと、平成24年度より授業協力を行っている教育学部の SS プログラム（開始当初は JASSO SS プログラムではなかったが、現在では採択されている）について記す。

1. 教育学部「アジア・アメリカ異文化交流短期受け入れプログラム2016」

教育学部が主管となって大学間協定を締結しているアメリカのコロラド州立大学より、平成28年5月18日から6月23日までの約5週間、同大で日本語を学習中の学生7名が来日し、教育学部で研修を行った。日本語の授業、日本事情的な授業、教育学部開設科目への参加、各種見学・体験等で構成されているプログラムの中で、インターナショナルオフィスからも高水が日本語授業担当として協力した。本プログラムの担当は、教育学部長からインターナショナルオフィス長への依頼という形を経て学内非常勤講師として受けたものである。参加学生には単位が付与されることから、本学（教育学部）所定の書式によりシラバスも作成して、実施に備えた。

今年度は、インターナショナルオフィスからは1名の担当となったため、平成27年度のように学生をレベル別に分けることはせず、全て「国際交流基礎演習Ⅰ」の受講生とした。

授業では、日本語による自己紹介のほか、身近なテーマについて話したり、レベルに応じた教材を用いたりして、読む・書く・聞く・話すの4技能を向上させた。より具体的には、うどんなどの香川県に関する内容を学ぶ、スキットを作成する、などを行い、最終課題により成績評価を行った。

2. 農学部「東南アジアなどの食品安全機能解析教育に関する大学間相互交流プログラム

(Educational Program for students from South East Asia and Pacific Rim on Food Safety and Nutraceutical Science at Faculty of Agriculture, Kagawa University)」

農学部では、「日本の食の安全」留学生特別プログラムという修士課程のコースがあることもあり、平成23年度より食品安全実践教育を目指す SS プログラムが、夏季休業中を利用して行われている。このプログラムには、将来的に本学修士課程に入学する学生のリクルーティングも期待して、日本語・日本文化を学ぶ時間も組み込まれており、インターナショナルオフィスの高水・塩井が日本語授業を担当している。こちらも、前述の教育学部のプログラム同様、農学部長からインターナショナルオフィス長宛の依頼文を受けて協力しているものである。

平成28年度は、8月19日から9月21日までの約1ヶ月間のプログラム中、5回の日本語授業が行

われた。マレーシア・台湾・カンボジア・中国・インドネシア・フィリピン・タイ・ベトナム・ブラジル・トルコ・ブルガリア・アメリカ・イギリス・ガーナの14の国・地域から計29名の学生が渡日し、文字・挨拶・簡単な会話といった日本語の基礎を学び、1回分（時間数で言えば2コマ分）の授業を使って、実際に学外へ出て学んだ日本語を使う買い物体験も行った。

参加国数・参加者数とも年々増加してきており、今年度はいずれもこれまでで最多であった。今年度は、高水が1人で担当したが、例年どおり農学研究科在籍中の日本語学習歴のある留学生にサポーターとして授業・買い物体験に協力してもらうことができた。

成績評価は、「Pass、×（合、否）」の2種のみで行った。日頃の授業態度、学外での買い物実践に関する日本語レポート、全授業終了後のレポート課題などによる総合的な評価である。最終レポートは、「プログラム期間中誰と日本語でコミュニケーションをしたか」「それはうまくいったか」「うまくいかない時はどのような手段をとったか」等の振り返りの内容とし、英語での記述を求めた。本レポートは、塩井・高水および農学部ルーツ教員による共同研究にもデータとして使用可能なものとするために、使用についてオプトイン形式での承諾を得ることも併せて行った。全体として日本語学習や学習した日本語の使用について肯定的な評価が得られたため、理系分野の専門を主とするプログラムの中で、日本語教育として一定の成果を上げることができたと言えるだろう。

留学生対象各種進学説明会

インターナショナルオフィス 高水 徹

今年度の国内外における各種進学説明会への参加一覧を末尾に付す。

平成28年4月から7月にかけて、日本語学校の留学生や教員を対象とした説明会に計6回参加した（末尾の表を参照）。会場は高松、岡山、大阪である。これらの説明会には、JASSO 主催のもの、民間の機関主催のもの、日本語学校主催のものが含まれる。近年は特に岡山での広報活動を重点的に行っているが、その理由は、毎年岡山の日本語学校から本学に進学する留学生が多く、地理的条件を考えれば、今後も多くの留学生の入学が見込めるからである。実際に岡山の会場では、他の開催地と同様の説明を行い、一見類似した質問を受けた場合でも、他の会場よりも詳細な内容であり、より真剣かつ具体的に本学への進学を検討している様子が伝わってきた。一方で、岡山会場においては、生活環境に関する質問などはあまり出てこない。これは、本学との地理的な近さを考えれば、学生にとって質問の必要がないからであると考えられる。

今年度も、高松において説明会が実施された。穴吹ビジネスカレッジの学生が中心ではあるが、他の日本語学校等所属の学生も参加可能な説明会である。穴吹ビジネスカレッジは、本学から最も近い県内の日本語学校であり、以前から同校より本学へ多数の留学生が進学している。他の会場とは異なり、地理的なことや交通機関に関する質問などはなく、その分試験制度に質問が集中していた。一方で、専門分野や試験科目など条件が合わないという理由で、同校からの本学への進学を現状以上に増やすことは、必ずしも容易ではない。

国外においては、平成27年度まで、JASSO 主催の日本留学フェアに参加してきた。この数年は、ベトナムでのフェアに参加し、多くの留学希望者が本学ブースを訪問した。

しかしながら、現状では、留学フェアの直接的な効果により、留学生が本学に進学等したケースは多いとは言えないため、今年度は同フェアに参加しないこととした。日本国内の日本語学校を経ず、本学に直接留学する場合は、学部レベルでは非常に数が少なく、大学院レベルではこのような一般的なフェアではなく、各部局のルートを通ってくるのが圧倒的に多いからである。

例えば、ベトナムにおいては、日本の大学への留学希望者がベトナム国内の日本語学校に通っていたとしても、高等教育機関への進学に必要な語学力を習得するため、日本国内の日本語学校でさらに学習する事例が多い。学生が既に高度な日本語力を身につけている場合は、日本語や日本文化等の専門コース（学部レベル）を有する大学を志望し、本学が留学先の候補にならなくなってしまう。そのような状況を考慮し、より国内における進学説明会に焦点を当て、継続的に参加していくこととした。

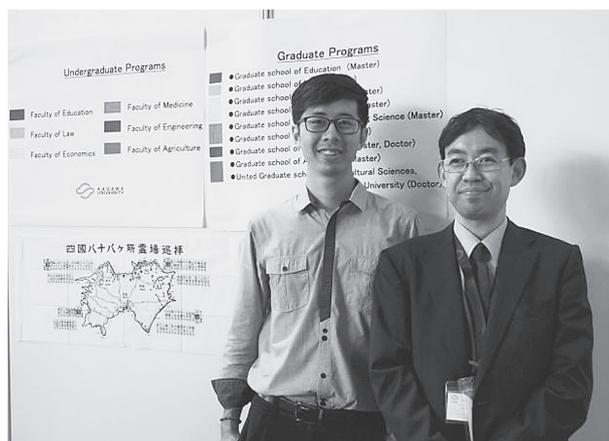
一方で、本学との特別な関係を有する国・地域で、本学希望者の来訪が見込める場合等は、同種のイベントに参加することも考えられる。その1つの例が、ブルネイにおける Higher Education Expo 2017への参加である。平成29年2月11日(土)および12日(日)、本学は同 Expo に参加し、多数の来訪者が本学ブースを訪れた。

本学への留学という点では、ブルネイ・ダルサラーム大学からは、医学部における短期プログラムや、さぬきプログラムへ今までも多くの学生が参加している。これらの学生の留学は短期または半年、特例的なケースでも1年であり、正規生ではない。今回参加してわかってきたのは、ブルネ

イからの学生が正規生として留学を考える場合、留学先としてまず挙がるのはイギリスであり、比較される候補としての日本は、学費の面で有利であるということである。他方、高等教育が9割以上英語で実施されている同国と異なり、日本では日本語が要求されることが多いという点が、正規留学生獲得の課題になるだろう。

開催日	開催地	備考
平成28年4月19日(火)	岡山	
平成28年6月3日(金)	岡山	
平成28年6月25日(土)	大阪	日本語学校の教員が対象
平成28年7月6日(水)	岡山	
平成28年7月7日(木)	高松	
平成28年7月16日(土)	大阪	JASSO 主催「外国人学生のための進学説明会」
平成29年2月11日(土) および 2月12日(日)	ブルネイ	Higher Education Expo 2017 (Bridex Hall 1& 2, Jerudong)

平成28年度に本学インターナショナルオフィスが参加した進学説明会



ブルネイにおける本学ブース
(Jason Pang 氏と長竹国際グループリーダー)

課外教育行事

インターナショナルオフィス 高水 徹

平成28年度は、1回の課外教育行事を実施した。この行事は、留学生や日本人学生が、香川県の伝統文化等への理解を深めること、および、学生間の交流の場を提供することを目的としたものである。

今回は、2つの特徴がある。1つは、県と連携して実施したことであり、もう1つは、丸亀市に焦点を当てたことである。

実施は平成28年11月5日(土)で、本学を含め12か国・地域37名（インドネシア、韓国、台湾、中国、ドイツ、バングラデシュ、フィリピン、ブルネイ、ブルンジ、ベトナム、マレーシア、南アフリカ共和国）の留学生が参加した。晴天の中、丸亀城見学、クリントピア丸亀（ごみのリサイクル処理施設）見学、うちわの港ミュージアムでのうちわ作り体験、中津万象園見学、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館見学を実施した。丸亀城では丸亀城鉄砲隊による砲術演武披露も行われた。

通常、本行事においては、日程や予算の都合上、これだけ豊富なメニューを提供できることはなく、非常に充実したものとなった。留学生にとっては、本県の今まで触れることのなかった歴史・文化・社会の側面に触れることのできるすばらしい機会であった。

交流活動および地域住民との連携の報告

インターナショナルオフィス ロン リム

交流活動はインターナショナルオフィスにとって、重要な役割である。まず、留学生は勉学の傍らで、日本人の友人（学生及び地域住民）を作り、日本人の考え方や文化を理解することによって、日ごろ、問題に巻き込まれる可能性が低くなると考えられる。その過程で、社会にいち早く慣れて、日本での留学経験が楽しくなることも言えるだろう。また、日本人学生は、留学生と交流をして、外国語や外国のことに、ある程度なじんでくると、海外留学に興味を持つようになることも考えられる。そして、地域住民の方々とは留学生と交流をすると、在日外国人の生活や状況を理解することも可能になる。

	開催日時			事業名	留学生	日本人学生	合計
	日	曜	時間				
1	4月9日	土	13:00～17:00	新入留学生ガイダンス&情報交換会			122
2	4月11日	月	12:10～12:50	Monday Events	7	17	24
3	4月18日	月	12:10～12:50	Monday Events	11	23	34
4	4月25日	月	12:10～12:50	Monday Events	9	16	33
5	5月9日	月	12:10～12:50	Monday Events	7	13	20
6	5月16日	月	12:10～12:50	Monday Events	8	13	21
7	5月23日	月	12:10～12:50	Monday Events	10	19	29
8	5月30日	月	12:10～12:50	Monday Events	9	15	24
9	6月6日	月	12:10～12:50	Monday Events	9	15	26
10	6月13日	月	11:00～13:00	Monday Events	7	10	17
11	6月20日	月	12:10～12:50	Monday Events	8	9	17
12	6月27日	月	12:10～12:50	Monday Events	9	7	16
13	7月2日	土		ホームビジット第1期1日目	5		5
14	7月2日	土	9:00～13:00	上之町国際寮流しそうめん	12	5	17
15	7月4日	月	12:10～12:50	Monday Events	8	7	15
16	7月9日	土		ホームビジット第1期2日目	10		10
17	7月10日	日		直島日帰り旅行	54	25	79
18	7月11日	月	12:10～12:50	Monday Events	8	10	18
19	7月16日	土	9:00～13:00	屋島留学生会館流しそうめん	12	3	15
20	7月27日	水	13:00～14:10	さぬきプログラム修了式、帰国予定留学生・卒業生との意見交換・反省会	18	17	35
21	9月3日	土		世界食文化（綾川町）	3		3
22	10月8日	土	13:00～17:00	新入留学生ガイダンス&情報交換会			77
23	10月17日	月	12:10～12:50	Monday Events	2	8	10
24	10月24日	月	12:10～12:50	Monday Events	3	7	10
25	11月5日	土	8:30～17:00	課外教育行事	37	1	38
26	11月7日	月	12:10～12:50	Monday Events	3	11	14
27	11月14日	月	12:10～12:50	Monday Events	5	3	8
28	11月20日	日		うどんづくり研修会（綾川町）	15		15
29	11月21日	月	12:10～12:50	Monday Events	3	9	12
30	11月28日	月	12:10～12:50	Monday Events	3	6	11
31	12月3日	土		ホームビジット第2期1日目	4		4
32	12月5日	月	12:10～12:50	Monday Events	0	4	4
33	12月6日	火	18:00～20:00	平成28年度香川大学留学生交歓会	138	36	174

	開催日時			事業名	留学生	日本人学生	合計
	日	月	曜日				
34	12月10日		土	ホームビジット第2期2日目	7		7
35	12月12日	月	11:00 ~ 13:00	Monday Events	6	6	12
36	12月19日	月	12:10 ~ 12:50	Monday Events	5	7	12
37	1月16日	月	12:10 ~ 12:50	Monday Events	3	4	7
38	1月23日	月	12:10 ~ 12:50	Monday Events	5	2	7
39	1月30日	月	12:10 ~ 12:50	Monday Events	3	2	5
40	2月1日	水	14:30 ~ 16:30	さぬきプログラム修了式、帰国予定留学生・卒業生との意見交換・反省会	10	4	14
41	2月6日	月	12:10 ~ 12:50	Monday Events	3	8	11
					479	342	821

平成28年度には、国際交流活動は41回を実施した。参加者の延べ人数は、821名だった。そのうち、留学生は479名で、日本人学生は342名だった。ほとんどの事業は、インターナショナルオフィスが主催あるいは共催するものである。他に、県内の国際交流団体の主催するものもある。下記のように、2種類のイベントがある。

(1) 留学生同士の交流、及び、留学生と日本人学生との交流

このタイプの交流は、32回実施された。具体的な例をあげると、毎週月曜に行われる Monday Events である。他に学長主催の外国人留学生交歓会、春・秋季の情報交換会、と夏の日帰り旅行である。

(2) 留学生と地元住民との交流

留学生にとって、地元住民との交流は同じく重要である。一般の方々とのコミュニケーションを取らせるため、インターナショナルオフィスはホームビジットや料理のイベント、(例えば、流しそうめん大会、世界食文化、うどん作り体験講習会)を計画して実施した。

就職支援プログラム

インターナショナルオフィス 高水 徹

平成28年度の本学における留学生を対象とした就職支援の多くは、日本学生支援機構による「公益財団法人 中島記念国際交流財団助成」の資金を得て実施した。本学が事務局を務める香川県留学生等国際交流連絡協議会による就職支援事業が、昨年度に引き続き、国際交流の事業として採択された。

全学的な学生の就職支援はキャリア支援センターが担当しているが、インターナショナルオフィスも、留学生を対象とした就職支援を行っている。これらの活動により、日本での就職を希望する本学留学生と企業がよりよい形でマッチングされていくことを願っている。

百十四銀行就職セミナー

平成28年4月27日(水)、百十四銀行研修会館にて、百十四銀行就職セミナーが実施された。本セミナーは、本学が実施したものではないが、香川県留学生等国際交流連絡協議会の事務局が設置されている本学が、百十四銀行にご提案をいただいたことにより実現したもので、今回が3回目となる。本学から4名、穴吹ビジネスカレッジから4名の留学生が参加した。

人事部より「会社の歴史・事業内容」、市場国際部より「会社の国際業務について」というお話を伺うことができ、続く質疑応答では、留学生も積極的に質問していた。今回も、同行に就職した先輩留学生のお話を伺うことができた。セミナー後半では懇親会の時間も設けられ、充実した交流の機会となった。このように企業側からお申し出いただくことは本学にはあまりないケースであり、貴重なセミナーとなっている。

実務懇談会&交流会

平成28年8月5日(金)には、留学生採用支援セミナー&交流会を実施した。本セミナーは、企業の留学生採用に資するため企業担当者を対象としたもので、百十四銀行と香川県留学生等国際交流連絡協議会の共催で行った。内容は3部構成とし、第1部は高松入国管理局審査部門首席審査官河村順一氏より就労ビザについて、第2部は行政書士の山田総子氏より就労ビザへの切替手続きについて、ご講演をいただいた。第3部は留学生との交流会とし、企業担当者と日本企業への就職を希望する留学生が互いの理解を深めるためのコミュニケーションの場を設けた。留学生にとっては、企業説明会とは違い気軽に質問できることで日本企業への理解がより深まり、大変貴重な機会となった。

留学生就職活動準備セミナー

平成28年10月28日(金)、留学生就職活動準備セミナーを実施した。就職活動の準備段階と位置づけられる本セミナーでは、内定を得た先輩留学生による就活体験談（経済学研究科 張丹丹）、接客マナーや食事マナーを実践する日本文化基礎講座（教育学部 加藤みゆき教授）、日本における就職活動について（マイナビ担当者 坂田 隆氏）の3つの内容を学ぶことができた。

留学生採用支援セミナーおよび留学生活用セミナー

平成28年11月14日(月)、留学生採用支援セミナーおよび交流会を実施した。今回は初めて百十四銀行と共催の形で実施することができ、多くの企業が参加した。第1部『留学生採用の意義とマネジメントについて』では、株式会社フォーバル 海外ディビジョン副ディビジョンヘッド 神山 英生氏に、第2部『当社の留学生採用のねらい』では、株式会社イナダ 代表取締役社長 稲田 覚氏に、それぞれご講演いただいた。いずれも、非常に具体的なご経験や、それに基づく経営のあり方などについての示唆に富む内容であった。第3部の交流会では、企業の皆様と学生たちの具体的な情報交換をすることができた。

企業見学会

平成29年1月13日(金)、企業見学会を実施した。本行事は、県内企業を見学することで日本をよりよく理解し、就職後の自らのワークスタイルを考える契機とすることを目的に実施したものである。

今年度は、留学生の採用実績がある株式会社タダノ志度工場を訪問した。人事担当者から企業の説明を受け、経営方法を学ぶとともに、工場を見学し、品質や安全管理の姿勢や取り組みについて学ぶことができた。

ビジネスマナー講座

平成29年2月17日(金)、ビジネスマナー講座を実施した。本講座は、インターナショナルオフィスによる就職支援の一環として、ビジネスマナーの基礎を留学生に学んでもらうために実施した。講師には、株式会社マイナビ 四国キャリアサポート課 大久保 淳氏をお招きした。服装、お辞儀も含め、非常に具体的に学ぶことができた。留学生を対象とし、就活に直結する実践的なマナーを学べる講座としては唯一のものであり、日本式の一斉採用もビジネスマナーも珍しいという状態である留学生にとっては、貴重な機会となった。

香川大学インターナショナルオフィス規則

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人香川大学組織規則第18条の2の規定に基づき、香川大学インターナショナルオフィス（以下「オフィス」という。）に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 オフィスは、香川大学（以下「本学」という。）の国際交流の窓口機関として、情報収集及び発信を一元化すると共に、国際戦略の構築並びに教育研究等の国際的な連携、学内の各組織の有機的な連携、地域の国際交流・協力活動との連携を推進することで、本学並びに地域の国際交流の推進に資することを目的とする。

(構成)

第3条 オフィスは前条の目的を達成するために、次の各号に掲げる組織を置く。

- (1) 国際研究支援センター
- (2) 留学生センター

2 前項の組織に関し必要な事項は別に定める。

(業務)

第4条 オフィスはオフィスを構成する組織の相互の連携協力を図ると共に、次に掲げる業務を行う。

- (1) 本学の国際化基本方針に基づき、国際交流に係る企画及び立案に関すること。
- (2) 国際交流協定の締結、その他の外国の機関との交流に関すること。
- (3) 国際交流活動に係る情報を収集・分析し、国際交流の推進に必要な情報を学内外へ提供し、国際的な情報発信の強化に関すること。
- (4) 国際交流推進事業展開のための外部資金獲得に関すること。
- (5) 地域における国際交流の支援に関すること。
- (6) 国際交流に係る危機管理に関すること。
- (7) その他オフィスの管理・運営並びに本学の国際交流推進に関し必要な業務に関すること。

(組織)

第5条 オフィスは、次の各号に掲げる者で組織する。

- (1) オフィス長
- (2) 専任教員
- (3) その他必要な職員

2 オフィスに副オフィス長を置くことができる。

3 オフィスに、部局に所属しオフィスの業務を兼任する教員（以下「兼任の教員」という。）を置くことができる。

(オフィス長)

第6条 オフィス長の任命は、本学理事及び職員の中から学長が指名する理事又は副学長（以下「担当理事又は副学長」という。）の推薦に基づき、学長が行う。

- 2 オフィス長は、オフィスの業務を掌理する。
- 3 オフィス長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、オフィス長を任命する学長の任期の末日以前とする。
- 4 前項の規定にかかわらず、オフィス長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(オフィス長の選考時期)

第7条 オフィス長の選考は、次の各号の1に該当する場合に行う。

- (1) 任期が満了するとき。
- (2) 辞任を申し出たとき。
- (3) 欠員となったとき。
- 2 オフィス長の選考は、前項第1号の場合には任期満了の1月以前に、同項第2号又は第3号の場合には速やかに、行うものとする。

(副オフィス長)

第8条 副オフィス長の任命は、本学教職員の中から担当理事又は副学長の申し出に基づき、学長が行う。

- 2 前項の申し出はオフィス長が副オフィス長候補者を担当理事又は副学長に推薦することにより行う。
- 3 副オフィス長はオフィス長の業務を補佐する。
- 4 副オフィス長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、副オフィス長を任命する学長の任期の末日以前とする。
- 5 前項の規定にかかわらず、副オフィス長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(専任教員)

第9条 専任教員の選考に関し必要な事項は別に定める。

(兼任の教員)

第10条 兼任の教員は、本学専任教員で国際交流の推進に関し専門的知識及び経験を有する者のうち、担当理事又は副学長の推薦に基づき、学長が委嘱する。

- 2 兼任の教員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、兼任の教員を指名する学長の任期の末日以前とする。
- 3 前項の規定にかかわらず、兼任の教員が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第11条 オフィスに、オフィスの重要事項を審議するため、香川大学インターナショナルオフィス会議（以下「オフィス会議」という。）を置く。ただし、オフィス会議の議決事項については、担当理事の承諾を経て決定されるものとする。

2 オフィス会議に関し必要な事項は担当理事が別に定める。

(事務)

第12条 オフィスの事務は、部局の協力を得て国際グループにおいて処理する。

(雑則)

第13条 この規則に定めるもののほか、オフィスの業務に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（平成21年10月1日）

1 この規則は、平成21年10月1日から施行する。

2 第11条の担当理事は、当分の間、担当副学長と読み替えて適用する。

附 則（平成23年5月1日）

この規則は、平成23年5月1日から施行する。

香川大学インターナショナルオフィス会議規程

(趣旨)

第1条 この規程は、香川大学インターナショナルオフィス規則（以下「オフィス規則」という。）
第11条に規定する香川大学インターナショナルオフィス会議（以下「オフィス会議」という。）
に関し必要な事項を定める。

(組織)

第2条 オフィス会議は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) オフィス長
- (2) オフィス規則第5条第2項に定める副オフィス長
- (3) オフィス規則第3条第1項に定める組織の長
- (4) 専任教員
- (5) オフィス規則第5条第3項に定める兼任の教員
- (6) 教育・学生支援部長
- (7) 学術部長
- (8) 国際グループリーダー
- (9) その他オフィス長が必要と認めた者

2 前項第9号の委員は、学長が任命する。

(審議事項)

第3条 オフィス会議は、次に掲げる事項について審議する。

- (1) 本学の国際化基本方針に基づく国際戦略の企画・推進に関する事項
- (2) 規則その他の制定又は改廃に関する事項
- (3) 組織の設置又は廃止に関する事項
- (4) 教員の選考に関する事項
- (5) 予算及び施設・設備に関する事項
- (6) 評価に関する事項
- (7) その他オフィス長が必要と認める事項

(会議の主宰及び議長)

第4条 オフィス会議に議長を置き、オフィス長をもって充てる。ただし、オフィス長に事故ある
ときは、あらかじめオフィス長の指名した者がその職務を代行する。

2 議長は、オフィス会議を主宰する。

3 オフィス会議は、議長の招集により開催するものとする。

(会議の議事運営)

第5条 オフィス会議は、構成員の過半数の出席がなければ、議事を開くことができない。

2 議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3 第3条第1項第4号及び第6号の議事については、第2条第1項第9号の委員は可否の数にかかわることができない。

4 第2項にかかわらず、特別の必要があるとオフィス会議が認めるときは、第2項に定める要件以外の定めをすることができる。

(構成員以外の者の出席)

第6条 議長は、必要があるときは、オフィス会議の承認を得て、構成員以外の者を会議に出席させることができる。ただし、この者は、可否の数に加わることができない。

(事務)

第7条 オフィス会議の事務は、国際グループにおいて処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、オフィス会議の議事及び運営の方法について必要な事項は、オフィス会議が別に定める。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則 (平成21年10月1日)

この規程は、平成21年10月1日から施行する。

香川大学国際研究支援センター規程

(趣旨)

第1条 この規程は、香川大学国際ナショナルオフィス規則（以下「オフィス規則」という。）第3条第2項の規定に基づき、香川大学国際研究支援センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、香川大学（以下「本学」という。）における国際的な研究交流の支援及び本学の国際化基本方針に基づく国際戦略の実施について中心的な役割を果たすことにより、本学における国際的な学术交流の推進に寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 特色ある国際共同研究及び国際展開プロジェクトの企画・開発及び推進に関すること。
- (2) 海外の研究機関との交流に関すること。
- (3) 海外学術ネットワークの強化に関すること及び海外の学術動向に関する調査に関すること。
- (4) 海外教育研究拠点校との学术交流の支援に関すること。
- (5) 各部局が実施する学术交流の支援に関すること。
- (6) その他前条の目的を達成するために必要な業務。

(職員)

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) センター担当教員
- (3) その他必要な職員

2 センターに、副センター長を置くことができる。

(センター長)

第5条 センター長の任命は、本学職員の中から国際ナショナルオフィス長（以下「オフィス長」という。）が学長が指名した理事又は副学長（以下「担当理事又は副学長」という。）に申出を行い、担当理事又は副学長の推薦に基づき、学長が行う。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

3 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、センター長を任命する学長の任期の末日以前とする。

4 前項の規定にかかわらず、センター長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(副センター長)

第6条 副センター長の任命は、オフィス長が担当理事又は副学長に申出を行い、担当理事又は副学長の推薦に基づき、学長が行う。

2 前項の申出は、センター長とオフィス長の協議により行う。

3 副センター長は、センター長を補佐し、センターの業務を整理する。

4 副センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、副センター長を任命する学長の任期の末日以前とする。

5 前項の規定にかかわらず、副センター長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター担当教員)

第7条 センター担当教員の任命は、センター長の推薦に基づき、担当理事又は副学長の了承を得てオフィス長が行う。

(事務)

第8条 センターに関する事務は、国際グループにおいて処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則 (平成21年10月1日)

この規程は、平成21年10月1日から施行する。

附 則 (平成23年5月1日)

この規程は、平成23年5月1日から施行する。

香川大学留学生センター規程

(趣旨)

第1条 この規程は、香川大学インターナショナルオフィス規則（以下「オフィス規則」という。）第3条第2項の規定に基づき、香川大学留学生センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、外国人留学生（以下「留学生」という。）及び海外留学を希望する香川大学（以下「本学」という。）の学生に、必要な教育及び指導助言等を行うことにより、本学における国際交流の推進に寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 留学生の受け入れに関する事。
- (2) 留学生に対する日本語等の教育に関する事。
- (3) 留学生に対する修学上及び生活上の指導助言等に関する事。
- (4) 留学生に係る奨学に関する事。
- (5) 留学終了者に対するフォローアップに関する事。
- (6) 学生の海外留学に関する事。
- (7) 地域における留学生交流に関する事。
- (8) 留学生教育等に係る調査研究に関する事。
- (9) 留学生会館の管理・運営並びに入退居に関する事。
- (10) その他センターの管理・運営並びに学生の国際交流に関する事。

(職員)

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) センター担当教員
- (3) その他必要な職員

2 センターに、副センター長を置くことができる。

(センター長)

第5条 センター長の任命は、本学専任教授の中からインターナショナルオフィス長（以下「オフィス長」という。）が学長が指名した理事又は副学長（以下「担当理事又は副学長」という。）に申出を行い、担当理事又は副学長の推薦に基づき、学長が行う。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

3 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、センター長を任命する学長の任期の末日以前とする。

4 前項の規定にかかわらず、センター長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(副センター長)

第6条 副センター長の任命は、オフィス長が担当理事又は副学長に申出を行い、担当理事又は副学長の推薦に基づき、学長が行う。

2 前項の申出は、センター長とオフィス長の協議により行う。

3 副センター長は、センター長を補佐し、センターの業務を整理する。

4 副センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、副センター長を任命する学長の任期の末日以前とする。

5 前項の規定にかかわらず、副センター長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター担当教員)

第7条 センター担当教員の任命は、センター長の推薦に基づき、担当理事又は副学長の了承を得てオフィス長が行う。

(事務)

第8条 センターに関する事務は、国際グループにおいて処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則 (平成21年10月1日)

この規程は、平成21年10月1日から施行する。

インターナショナルオフィス教職員一覧

2016. 10. 1

教員 ※ (兼) は兼任を示す
 《インターナショナルオフィス》
 (兼) オフィス長／徳田 雅明
 (兼) 副オフィス長／教授／ロン リム
 客員教授／熊谷 信広
 講師／高水 徹
 講師／塩井 実香
 講師／正楽 藍
 非常勤教員／町原 友梨
 非常勤教員／モストファ・ルビ
 非常勤教員／マリン・ジェイソン
 非常勤教員／ジェイガー・サミュエル・ガブリエル
 (兼) 教授／寺尾 徹 (教育学部)
 (兼) 教授／R. R. ラナデ (経済学部)
 (兼) 教授／和田 健司 (医学部)
 (兼) 教授／郭 書祥 (工学部)
 (兼) 教授／川村 理 (農学部)
 (兼) 准教授／佐川友佳子 (法学部)
 (兼) 准教授／佐藤 勝典
 (地域マネジメント研究科)
 〈留学生センター〉
 (兼) 留学生センター長／ロン リム
 非常勤講師／秋田 節子
 非常勤講師／黒川 祐三子
 非常勤講師／和田 方子
 非常勤講師／児島 由佳

事務職員
 《国際グループ》
 リーダー／長竹 善伸
 担当 総括
 サブリーダー／笹嶋 孝司
 インターナショナルオフィス業務
 チーフ／上田 幸司
 国際交流業務
 チーフ／浅野 文恵
 留学生業務
 チーフ／池田紗和子
 留学生業務
 グループ員／福家 徹也
 留学生業務
 グループ員／下山 尚子
 国際交流業務
 グループ員／高尾 さやか
 留学生業務
 《インターナショナルオフィス》
 グループ員／多田 利子
 留学生会館業務
 グループ員／土屋 麻美
 花園寮業務

香川大学インターナショナルオフィス年報 第8号(2016年度)

発行 平成30年3月31日

発行者 香川大学インターナショナルオフィス

〒760-8521 香川県高松市幸町1-1

TEL : 087-832-1194

FAX : 087-832-1192

印刷所 株式会社ムレコミュニケーションズ

TEL : 087-822-2600 (代)

FAX : 087-822-0567, 826-1448